

vol.37 mar. 2022



拓海

「海」を切り開く匠の業と心

CONTENTS

2021年度 旅立ち 卒業特集	
卒業生・修了生のみなさんへ	3
卒業生・修了生から在学生へ	7
卒業、修了する先輩留学生から在学生へ	12
退職の年を迎えて	14
大学院紹介	19
グローバル人材育成プログラム	22
海洋工学部国際交流プログラム	23
業界で活躍しているOB・OGの方々	24
海鷹祭の紹介	26
新任教員の紹介	27
学生の課外活動報告	28
ニュース&トピックス	29
学生相談室からのお知らせ	33
お知らせ	35

◆2021年度 旅立ち

■卒業特集

◎卒業生・修了生のみなさんへ

「イノベーション」	井関 俊夫……	3
卒業する皆さんへ	黒瀬 光一……	4
卒業生・修了生のみなさんへ	元田 慎一……	5
賢明に生きよ	田中 祐志……	5
「母校」は「母港」	兵藤 哲朗……	6

◎卒業生・修了生から在學生へ

在校生の皆さんへ	山下 凌……	7
「充実した大学生活」	岩本 夏実……	7
「飛び込む勇氣」	海野 七美……	8
「後輩たちへ」	吉川航太郎……	8
在校生の皆さんへ	倉賀野太一……	9
隗より始めよ	東富 隆馬……	9
負け	板坂 果林……	10
在校生の皆様へ	五味洵有花……	10
“学び”を“修める”ということ	竹谷佳弥乃……	11
いま、在學生に伝えたいこと	中村 綾花……	11

◎卒業、修了する先輩留學生から在學生へ

一緒に乗り越えましょう！	朱 迅 霏……	12
卒業する先輩留學生から在學生へ	王 易 石……	13

■退職の年を迎えて

「人生、わらしべ長者が如く」	東海 正……	14
定年に想う	田中 栄次……	14
海洋大生は海に行きましょう！	藤田 大介……	15
本学での教員生活を振り返って	釜田 和利……	15
定年を迎えて	池谷 毅……	16
環境と開発、どちらに軸足をおくか？	鶴 哲郎……	16

In the Year of Retirement

Yuttana Theparoonrat……	16	
定年の年を迎えて	堀内 敦……	17
退職の年を迎えて	徳永 晴徳……	18
退職の年を迎えて	北野 庸介……	18

■大学院紹介

海洋システム工学専攻	塚本 達郎……	19
海洋生命資源科学専攻	濱崎 活幸……	20
応用生命科学専攻	廣野 育生……	21

■グローバル人材育成プログラム

海外とのオンライン交流で得た大きな学び	川野 桃子……	22
コロナ禍での海外留学	小林 葵……	22

■海洋工学部国際交流プログラム

海外インターンシップでの経験	松田虎太郎……	23
海外インターンシップに参加して	田中 慎也……	23

■業界で活躍しているOB・OGの方々

日本の水産行政の最前線	村井 彩子……	24
学生の皆さんへ	佐藤 佑香……	25

■海鷹祭の紹介

第62回海鷹祭を終えて	高橋 宏知……	26
-------------	---------	----

■新任教員の紹介

海洋電子機械工学部門	藤田 渉……	27
------------	--------	----

■課外活動報告

ギター部	伏見 理子……	28
海事普及会	平野 武……	28

■ニュース&トピックス

- 品川キャンパス オンライン父母等懇談会…… 29
- 2021年度海洋工学部父母等懇談会…… 29
- 令和3年度9月期学生表彰授与式を
行いました…… 30
- 令和3年度9月期学位記・
修了証書授与式を挙りました …… 30
- 令和3年度10月期大学院入学式を
挙りました…… 31
- 汐路丸竣工披露式を開催しました …… 32

■学生相談室からのお知らせ

- 学生相談室について…… 33
- 学生相談体制について…… 34

■お知らせ

- 就職支援体制について…… 35
- 国立科学博物館および
国立美術館の利用について…… 35
- 緊急時連絡システムについて…… 36
- ネットワーク障害防止のための注意事項…… 36
- 学生関係窓口からのお知らせ…… 40
- 悪質な就活商法に関する注意喚起…… 40
- 東京海洋大学校友会のご案内…… 41
- 掲示板…… 42

2021年度 旅立ち

卒業特集

卒業生、 修了生のみなさんへ

「イノベーション」

学 長
井 関 俊 夫

皆さん卒業・修了おめでとうございます。新型コロナウイルスによるパンデミックが起こっている中、たくさんの苦難を乗り越えて、社会に旅立つ皆さんに心からのエールを送ります。この2年間で社会のあちらこちらに綻びが生じて、最近では「VUCA（ブーカ）の時代（変動性が高く、不確実で複雑、曖昧な時代）」などと呼ばれています。このような時代であるからこそ、本学の校歌にあるように「時代（とき）は正（まさ）に若者の 鉄の腕（かいな）と 英智に宿る」のだと思います。荒波を乗り越えて卒業・修了に漕ぎつけた皆さんには、確固たる自信を持って、大いに活躍して欲しいと思います。

ところで、令和3年度後学期に「海洋アントレプレナーシップ養成セミナー：海の起業論Ⅰ」が開始されたことはご存知でしょうか。卒業生・修了生の中にも実際に履修した人がいるとは思いますが、少しこの講義の話を見せて下さい。この講義は、豊小波副学長の主導のもと、中原尚知先生、川名優孝先生、設楽愛子先生を始め、多くの先生方の献身的な努力によって開講されました。「アントレプレナーシップ」とは、一般的に「起業家精神」などと訳されていますが、中原先生の講義では、オーストリアの経済学者シュンペーターが著書の中で述べた「企（起）業家（entrepreneur）」がもとであるとの説明がありました。以下、私の理解した範囲で話を進めさせていただきます。シュンペーター



によれば、「企業家」とは「新結合」を遂行する人で、「新結合」とは「新しい組み合わせによって新たな価値を創造すること」、すなわち最近よく耳にする言葉「イノベーション」に相当する言葉だそうです。卒業生・修了生の皆さんが実際に「起業」するかどうかは別として、この春から所属する組織の中で「新しい事業の立ち上げ」に関わる可能性は低くはないと思います。それはまさに組織内における「起業」であり、皆さんはそこで「イノベーション」を起こす任務を与えられるかも知

れません。そこで一つ重要なことを付け加えます。シュンパーターは、「イノベーション」を起こすためには「創造的破壊」が必要であると言っていることです。つまり、既定路線に固執して、いつまでも同じことをやっていたではダメだということです。

皆さんは、かつて携帯電話といえば「ガラケー」がほとんどであったことを記憶していると思います。「ガラケー」が「ガラケー」と呼ばれるようになった原因においても「イノベーション」が関係していました。国内の各メーカーが携帯電話の開発競争を行っている間に、プッシュボタンを廃止するという「創造的破壊」を行い、「携帯電話」と「情報端末」の「新結合」を実現した「スマホ」が現れたためです。人気製品の高性能化・高機能化を追求し続けることはメーカーとして当然のことだと思いますが、いわゆる「成功の罠」に陥ったこととなります。一般的に、「成功の罠」から逃れることはかなり難しいと言われています。

一方で、全ての「創造的破壊」が「イノベーション」につながるわけでもないようです。「ガラケー」の場合では、「携帯電話」ではなく、「情報端末」が多くの人に求められていたことが原因のように思えます。単にヒット商品を生み出すのではなく、真の意味での「イノベーション」を起こすためには、人間の本質を追求する必要があると思います。言い換えれば、人間の幸せを考え、人間の豊かな生活を思い描く能力が「イノベーション」を起こすのだと思います。過去に縛られない自由な発想で、これまでにない幸福感や豊かな生活を思い描くことができるのは皆さんのような若者です。スティーブ・ジョブズは21歳でアップル社、ビル・ゲイツは22歳でマイクロソフト社を創業したそうです。「時代(とき)は正(まさ)に 若者の 鉄の腕(かいな)と 英智に宿る」のではないのでしょうか。この「VUCAの時代」を皆さんが明るく切り開いて行くことを期待しています。

「起業」に興味を持った人は令和4年度の「海の起業論I」を受講して下さい。卒業生であっても科目等履修生として受講できます。もっと真剣に勉強したいと思う人は、是非、社会人学生として本学に戻って来て下さい。現場の実態や困難を知ったうえでこそ、発想できる「新結合」があると思います。東京海洋大学は、そのような皆さんのために、今後リカレント教育にも力を入れて行きます。

卒業する皆さんへ

海洋生命科学部長

黒瀬 光一



皆さん、卒業おめでとうございます。思う存分、海洋大学を満喫しましたか？ 大学生活を振り返ってみると、いろいろなことが思い出されることでしょうか。皆さんがこれから社会に出て、日本あるいは世界で活躍していく際に、海洋大学で経験した様々なことを生かして欲しいと心より願っています。海洋大学で何を学んだか、それをこれからの人生にどう生かすか、学問だけではなく、身の廻し方、人とのつながり、時には理不尽に感じるような経験をしたかもしれないかもしれませんが、その全てが皆さんの財産です。私自身、振り返ってみると、学生時代に経験した様々なことがその後の人生の基盤となっているように感じます。

皆さんがこれからの人生で出会うさまざまな課題には、必ずしも正しい答えがある訳ではありませんし、答えは1つとは限らずいくつもある、という場合もあります。さあ、どうしましょう。そのような時、海洋大学で身に付けた課題解決能力や様々な経験がきっと皆さんの力になってくれることでしょうか。海洋大学では、皆さんが答えの用意されていない課題に挑み、自分の頭で考え、解決策を導き出していけるような人間に育つよう教育をしてきたつもりですし、海洋大学を卒業した皆さんはそのような人間に育っているものと確信しています。皆さんには、そのような東京海洋大学を卒業したというプライドを持って社会に羽ばたいていただきたいと願っています。

一方、皆さんの心に留めおいていただきたいことが一つあります。それは皆さんの活躍や成したことは東京海洋大学卒業生の事績として社会に刻まれるということです。サケの母川回帰という訳ではありませんが、皆さんの活躍が海洋大学に帰ってくる、すなわち、海洋大を一流たらしめるのはこれからの皆さんの双肩にかかっているといても過言ではないのです。そういう意味で、今後またゆめめ努力をお願いし、また、期待しています。

皆さん、ご卒業、本当におめでとう！

卒業生・修了生のみなさんへ



海洋工学部長
元 田 慎 一

卒業生のみなさん、おめでとうございます。ほとんどのみなさんは大学生活を終えて社会に飛び込むことになり、今は期待と不安が入り混じった気持ちでしょう。でも、私は心配していません。なぜならみなさんは2年間以上、本学に身を置いて、そこで得た海洋大スピリットを身に付けていると思うからです。それは具体的には何でしょうか？ひとつは本学の教育目標である「実学主義」です。それは3現とよばれる、現実、現物、現場を理論的・学術的に検証しつつ、最も大事なことは現場に行き現物をカタチにすることとする考え方です。なんとなく分かるな、という気になったら、それがみなさんのアドバンテージです。社会に出て日々の業務で悩んだら、本学で学んだ「実学主義」の考え方に立ってみて下さい。何か解決方法が見つかるかもしれません。さて、もう一つ。近年では大学卒業後の3年離職率が30%を超えていると言われてますが、それは単に若い人の我慢が足りなくなったからだとは私は思いません。現在、我が国は「失われた10年」と言われる長期の景気低迷期が続き、またここ数年はコロナ禍のためにさらに経済成長の低迷が余儀なくされています。そのために会社が若い人を教育する余裕がなく、入社直後から成果を求められることが一因であると思っています。でも、これは全ての新入社員に課せられるのでみな同じ。では違いは何でしょうか？それは、気の乗らない与えられた仕事に対して「如何に興味を持つことができるかどうか」であるように思います。指示されて行う仕事がいずれも楽しいとは限りません。自分には合わない、でも仕事だから仕方ないと思って我慢していると、ストレスによっていつか心が限界に達してしまいます。それを解消する方法は、お酒を飲む、友人と話す、旅行に出かける、など人それぞれですが、そもそもストレスを溜めない方法は何でしょうか？それは何事にも興味をもって楽しむことだと思います。興味があれば何か面白いことをみつけられます。面白いと思えばそこに至る苦労がかなり軽減されるのではないのでしょうか？卒業研究や大学院での研究が夜遅くまで何日も続けられたのは、そこに自分から興味を持って取り組める、面白いと思える要素があったからではないのでしょうか。もし会社に入って悩んだら、「実学主義」、また「興味を持って面白い」。これを試してみてください。そして、最後にもう一つ。もしこの

方法が上手く行って会社から特大のボーナスが出たら、ぜひ海洋大基金にご寄付を！ご活躍を祈念いたします。

賢明に生きよ

海洋資源環境学部長
田 中 祐 志



就職する人も進学する人もおめでとう。大学に入るまで、さらに入った後も、努力を重ねてここまで来た。とりわけ卒業する君は、最後の二年に非常なる困難に直面しながら、時には歯を食い縛り兀々と何かを築いてきた。苦しい日もあったろう。それでも卒業を成し遂げた君を心から尊敬し祝福する。君自身も己を正当に称賛すべきである。

さあ、今からは己が定めた目標へと己の力で進むのだ。行け、青年！

だけど気をつけろ。前途には魑魅魍魎が潜んでいる。気候激変、異常気象頻発、海水位上昇、海水 pH 低下、酸欠水域拡大、局地的 / 全球的生態系崩壊、資源・エネルギー・食料・水の枯渇、パンデミック恒常化、人口激減 / 激増、人心荒廃、国際紛争、さらに天変地異、…を齎す強大な怪物だ。今はヒトが棲むこの星が何十億年も掛けて築いてきたものを、これからたった百年ほどの間、即ち君らの時代にぶち壊し得る。できるなら退治したい。しかし実は、ヒトが挑んでも全く太刀打ちできないかも知れない。

ではどうする？力ではなく知恵で対処しよう。怪物の正体を調べ尽くし、眠らせるのが最善策だ。策を練るのは知者の役目である。日本唯一の海洋大学で鍛えられた学士である君の出番だ。君は難敵に怯まぬ志と力を持つ特殊なタレントなのだ。怪物が暴れ出したなら、地球外に逃げるか、地球上では衝撃を最小限に防ぎ壊滅を避けるしかない。だから君、頑張ってくれ。

ただし「頑張れ」は「事に当たって冷静かつ誠実に対処せよ」である。強大な怪物を抑えるには長期的で総合的な策が要る。「人類には時間が無い」などと煽られ突っ込んで破滅するのは無謀だ。己の命を大切にしろ。懸命も良いが賢明に生きよ。有事に於いては、君の持つ知識、技術、装備、物事への見方や当たり方、さらには人との繋がり等々総てを投入し最善を尽くせ。平時に於いては「治にいて乱を忘れず」日々成長する人であれ。

前途に幸多かれと祈る。

「母校」は「母港」



海洋科学技術研究科長

兵藤 哲朗

大学院を修了される皆さん、まずはおめでとうございます。この2年間はコロナ禍の2年間でもあり、研究生活にも大きな影響があったと思います。おそらく国内・海外の対面学会にも殆ど参加できなかったのではないのでしょうか。他校の学生さんや研究者との交流は、大学院研究生活の一翼を担うため、それらのチャンスをリモートなどで代替せざるを得なかったのは残念です。

そんな状況下でも、皆さんは研究に勤しみ、立派に修士論文や博士論文を完成させることができました。その過程で、指導教員や研究室の学生さんとのオンラインゼミもあったと思います。それと対面のゼミと比較した場合、人と人が対面で顔を突き合わせて議論することに、「創発」的な相互作用が生じることに気づかれたのではないのでしょうか。私の経験では、相手の表情や、何気ないジェスチャー、誰かの独り言…などリモートでは伝わらない要素が「創発」を産むのだと思います。リモート時代とはいえ、是非、対面の効果を尊重して下さい。

これから社会に旅立つ学生さんには、本学「母校」は「母港」でもあることを覚えていてもらいたいと思います。昔と異なり、転職があたり前の世の中になりつつあります。転職すると、前後の職場間のつながりは失せてしまうでしょう。しかし指導教員や大学院生・卒論生と過ごした研究室は「母港」としてあなたを迎え入れてくれると思います。特に指導教員には折を見て現況報告をお願いしたいですね。皆さんは、時として、大海を漂う船となることもあるでしょう。しかし、連絡手段が確保できていれば何とか次の一手も見出すことができるでしょう。

大学院生活で得た貴重なスキルや成果を社会で活かして、是非、充実した良き人生を謳歌して下さい。

Bon voyage !



2021年度 旅立ち

卒業特集

卒業生、 修了生から在学生へ

在校生の皆さんへ

海洋生命科学部 海洋生物資源学科4年

山下 凌

私は、大学生活はこれまでで最も自由に行動できる時間であったと感じています。そのため皆さんに伝えたいのは、とにかくやりたいことをやってほしい、ということです。また、近年はコロナ禍ということもあり、世の中の情勢に柔軟に対応していく必要があります。行動が制限される中で、何ができるのかを考え、とにかく行動することが重要であると考えます。私の場合はかなり極端な例ですが、ゼミや授業がオンラインであることを活かし、実家へ帰省し、毎日地元の川に潜ったり、フィールドへパソコンを持っていき、オンライン授業を受けて、すぐに生物採集をおこなったりしていました。

オンラインということで、自宅で自堕落な生活を送りがちになってしまう人がいるかもしれませんが、本当にもったいないです。大学生活ほど自由な時間はほとんどの人の場合、当分やってきません。それを回避するため



野生のアナグマに遭遇し、喜ぶ筆者

に私がおすすめするのは、生物の飼育です。例えば魚を飼育する際に健康に育てるためには、決まった時間に餌をやり、定期的に水槽のメンテナンスをする必要があります。そうして世話をするうちに、自分自身も規則正しい生活を送れるようになります。また、毎日好きな生物を見られるため、より幸せな人生になると考えます。ただ、わかっている方がほとんどであるとは思いますが、最後までしっかり面倒を見ることが前提です。途中で飼育放棄してはいけません。

結局のところ、自分を律することができるのは自分自身です。皆さんが後悔の無い、充実した大学生活を送れるよう願っています。

「充実した大学生活」

海洋生命科学部 食品生産科学科4年

岩本 夏実

気がつけばあっという間に過ぎ去った4年間でした。有難いことに、大学生活最後にこのような皆様に向けての言葉を書かせていただける機会をいただきました。恐縮ではございますが、私が思う大学生の間にやるということをお伝えしようと思います。皆様の心に少しでも留めていただけたらうれしく思います。

まず、何にでも新しいことに挑戦してください。それは勉強でも、部活でも、アルバイトでも、恋愛でも構いません。迷うこともあれば、失敗を恐れることもあるでしょう。失敗してもいいじゃないですか。今、この時楽しめることや面白く思うことは、将来、歳を重ねても変わらず楽しめるとは限りません。ただ、その時感じたこ

とや考えたこと、楽しい思い出は先に繋がると思います。今を逃すのは、勿体ないです。

また、健康には十分配慮してください。体を壊してしまうと何もできなくなってしまいます。前述した、新しいことへの挑戦だけでなく、日常生活も満足に送れないのは非常に残念なことです。健康のために、栄養バランスのとれた食事、適度な運動、十分な睡眠をとるのは難しいとは思いますが、少しでも心がけていきましょう。私自身も全て行える日はほとんどありませんが、実行できた翌日はとても調子がいいという体感があります。

少々説教めいた話になってしまいましたが、皆様がこの先、充実した大学生活および人生を送れるよう、お祈りしております。



ある日のお昼ご飯（自作）

「飛び込む勇氣」

海洋生命科学部 海洋政策文化学科4年

海野七美

苗字に「海」が含まれるというだけの理由で何となく志望した私は、入学後も漁業や海洋にさほど興味はなく、今となっては貴重なフレッシュマンセミナーでの乗船も、盛大な船酔いで大半の記憶がありません。そんな私も、漁村滞在を経験するなどして漁業の面白さを知り、来年から引き続き大学院で勉強します。

きっかけは、授業で話を聞かなかで、「実際の漁業ってどんな感じなのかな」と思ったことでした。思い切って、授業に漁師さんを招いたりしていた現在の指導教員の先生に連絡を取り、インターンシップを紹介してもらい、三重県の漁村で1か月過ごすことになりました。養殖漁師さんの仕事を手伝いながら過ごすうちに、今まで抱いていた漁業のネガティブなイメージは覆って

いきました。朝5時に初めて沖に出た時の景色と、潮の香りは、今でも記憶に残っています。漁業は生命産業なのだという実感が初めて湧き、食を支える漁師という仕事に尊敬の念を抱くようになりました。

インターンが終わってからも、漁業、漁村について更に知りたいと感じ、また思い切って、資源管理や漁村の有志の勉強会（学生団体）にも参加するようになりました。全く漁業に触れてこなかった私でさえ熱中するほど、漁業は面白く、奥が深い世界です。そして、少し行動しただけで、ここまで大きく環境を変えることができるのは、海洋大の強みだと思います。

少しでも興味のある人は、勇気をもってその世界に飛び込んで欲しいと思います。今更、なんて思わなくて大丈夫です。それだけで、大学生活がもっと豊かになりますよ。

「後輩たちへ」

海洋工学部 海事システム工学科4年

吉川航太郎

船に乗りたくて入学してきた人、家が近いから入学してきた人、国立で偏差値が低いから入ってきた人、いろいろいるだろうけど、特に今までは満足な学生生活を送れなかったんじゃないかなあと思う。かくいう僕も、やりたいことを全てできたわけではないし、思い描いていた学生生活には到底及ばない、平凡な毎日を送ってきたわけで、...

東京海洋大学、謎の英語民間試験推し、越中と品川の政治はあるわ、水産専攻科行くなら初めから越中來いやとも思うし、大教室寒いのに施設管理課は知らんぶり。ライブキャンパスは使いづらいし、寮は無法地帯



だし、八朔酸っぱい。先輩らも文句ばかり言って卒業していった。それでも、146年の歴史はすごいと思う。就職活動をしたからわかるが、多くの企業の人事は海洋大学を知っているし、ご年配方は「商船大、すごいね」と言ってくれる。それは今までの先輩方がいろんなところで活躍し、日本を背負ってくれたからだと思う。そんな歴史の中の一人として、僕らは何ができるのか、今すぐ答えを持ってとは言わないけれど、ちょっとでも意識して学生生活を送れば、きっと何か変わってくるはず。諸君ももう解るだろう、大学の4年間はあつという間だったから。特別な何かを成し遂げられないとしても、ポーッとただ過ごすのはもったいなすぎる。高尚なフリでもいい、頑張っしてほしい。

在校生の皆さんへ

海洋工学部 海洋電子機械工学科4年

倉賀野 太一

こんにちは。この頃、大学生にとって生きにくいのが生きやすいのかよくわからない世の中ですが、いかがお過ごしでしょうか。このような機会がなければ、自分の大学生活についてじっくりと振り返ることなく卒業していたと思われるわけで、改めて自分の記憶を辿っていきたくと思います。

船乗りのふの字も知らない私が入学した4年前。3年生の乗船実習では、これが最後の船かと思いながら下船したことをはっきりと覚えています。そんな私になぜ船に乗る選択をしたのか。はっきりとはわかりませんが、自分の将来のことについてしっかりと向き合うことができたからこそその選択だったような気がします。これは1人でできることではありません。家族や友人など様々な人の意見を取り入れることが重要だと思いました。周りを気にしすぎたり、独りよがりになってしまうことは避けてください。まだ経験していない未来について自分だけで考えることは限界があります。時には周りの流れに身を任せることも良いでしょう。その上で最終的には自分で選ぶことがとても大切だと思います。この2つのバランスを取ることが難しいのです。しかも、この選択が正しいのか正しくないのかは誰もわからないわけで、正解のない選択の難しさに改めて気付かされました。

在校生の皆さん。残りの学生生活を存分に楽しんでください。益々のご活躍を期待しております。

隗より始めよ

海洋工学部 流通情報工学科4年

東 富 隆 馬

在学生の皆様、こんにちは。海洋工学部流通情報工学科4年の東富隆馬です。「拓海」に原稿執筆できて、とても嬉しいです。今回のテーマは、「卒業生・修了生から在學生へ」とのことなので、老婆心ながら在學生に向けて、いくつかアドバイスを送りたいと思います。

私は高知県の出身です。高知県出身の有名人に岩崎弥太郎（三菱財閥の創始者）がいます。岩崎弥太郎は、本学との関係も深く、実は本学の創立者だったりします。彼の残した言葉の一つに「機会は魚群と同じだ。はまったからといって網を作ろうとするのでは間に合わぬ」というものがあります。一網打尽にできる魚の大群を発見したとしても、発見後に網を作り始めたのでは、魚に逃げられてしまいます。絶好の機会というのは過ぎ去るのが早く、それ故チャンスをつかみ取るためには、常に準備が必要なのです。

チャンスをつかむための“準備”とは、一体何なのでしょう。それは、毎日を全力で生きることだと私は考えています。毎日を全力で生き、常に自分の限界にチャレンジすることで、初めて自分を成長させることができます。そして、この成長の積み重ねが、いつか大きな物事を達成するための、大きな原動力になると私は確信しています。

以上、拙い文章でしたが最後までお付き合いいただき、ありがとうございました。在学生の皆様の益々のご活躍を期待しております。



春の井の頭公園

負け

海洋資源環境学部 海洋環境科学科4年

板坂果林

大学生活を振り返って皆さんは何回負けを味わいましたか。私は優に100回は負けています。私は大学4年間女子バスケット部に所属していました。海洋大女子バスケット部は部員が毎年4～5人と少ないです。部員が少ないので練習では男子と試合をします。この4年間で何回負けたのか数え切れません。どれだけ練習しても高く、力強くなれない悔しさを何度感じたのかも数え切れません。それでも私たちは練習しました。コロナ禍でも自主練をしました。ずっと同じ繰り返しのように思えた練習も、実は螺旋階段のように少しずつ実力がついてきたのだと気づいた時にはもう引退していました。たくさんの負けを経験した私からすると、負ける事は悪い事や恥ずかしい事ではないと思います。

ところで皆さんは「鬼滅の刃」を見ましたか。鬼滅の刃を例にとると、勝ちや強さに執着して鬼になるよりも、死をもって善を貫いた煉獄さんの方がカッコいいと思います。日常生活でも「とにかく結果を出せ」や「変化に適応しろ」というまるで「鬼にならないか」という誘いを私たちは受け続けている気がします。「己の弱さや不甲斐なさにどれだけ打ちのめされようと、心を燃やせ」と、煉獄さんが最期に言い残します。

私は、例え負けようと人として善くあることの価値を大切にしたいです。そしていつか社会にその価値を提供できる仕事がしたいです。

今この一瞬もその価値が皆さんに伝わっていたらいいと思います。



女子バスケット部の部員たち（左から3番目本人）

在校生の皆様へ

海洋資源環境学部 海洋資源エネルギー学科4年

五味淵有花

皆様いかがお過ごしでしょうか。充実した日々をお過ごしでしょうか？私が大学で過ごした4年近くの日々は想定外の連続でしたが非常に充実したものでした。私の4年間の日々から在学生の皆様へお伝えできることは、新しいことにこそ進んで挑戦してほしいということです。

私は主に生物分野の勉強をしたいと考え本学を受験し入学しました。しかし、日々講義を受け、新しい知識を身につけていると自分の興味を持った分野は入学当時の想像とは全く異なる分野でした。入学当時の目標を初志貫徹することももちろん素晴らしいことだと思います。しかし、日々新しいことを吸収していく中で自分の意思や価値観が変化していくことも大事な瞬間であるということをご皆さんには知っていただきたいです。

加えて、そのような経験が出来たのは紛れもなく日々の講義や研究を支えてくださった先生方や日常をともに過ごした友人達のおかげです。私にとって大学という場は勉強の場だけでなく、信頼できる人との人間関係の構築の場でもありました。社会に出れば他人と0から信頼関係を築くことは難しいものだと思います。そのため、長い人生の中でこのような機会は非常に貴重です。

最後に、在学生の皆様の中には思い描いていた大学生活とは少し別の景色が広がっている人も多いのではないのでしょうか。先が見えてこない人もいらっしゃるかもしれませんが。そのような時こそ、将来心から目指したい道が分かったときに後悔のないよう今自分がいる環境を大事にしてください。皆様の残りの大学生活が少しでも有意義なものになるようお祈り申し上げます。



“学び”を“修める”ということ

大学院海洋科学技術研究科 食品流通安全管理専攻2年

竹谷 佳弥乃

【学ぶ】まねてならう。見聞した物事をそのまま人に語り告げる。教えを受けてならう。

【修める】学問・技芸などを学んで、自分のことにする。習得する。(いずれも広辞苑より、引用)

この原稿を読んでいる在学生の皆さんは、“学ぶ”ことにどんなイメージをお持ちでしょうか。私が約六年前、東京海洋大学に進学を決めたとき、“学ぶ”ことは「教えを受けてならう」ことでした。ですが、修士生として学びを“修める”立場になった今、学びを自分のことにする＝「修める」重要性を感じます。そして、大学院生活を通し「自分ごととして興味を持つ心」が自然と“学び”を“修める”ことにつながったと感じています。

私が所属する食品流通安全管理専攻は社会人学生の方も多く在籍しています。授業でケース演習(実際の事件・事故をもとに、問題点や再発防止策を考える学習方法)を行うと、社会人の方々の「もし、自分の会社が同じ状況だったら、…」という視点がリアルなことで、議論は活発になりました。こう書くと、社会人経験のない学生には難しい様に見えますが、そうではありません。例えば研究室のゼミで他の人の成果発表を聴講した際、「自分が発表者のあの子だったら、次の実験はどうするだろう」や「自分の課題点が、この子の実験方法で解決できるのではないだろうか」というスタンスを持つだけで、吸収出来ることは大いに変わると思います。

“学び”の機会に溢れている在学生の皆さんには、どんな時も当事者意識を持つことで、より多くのことを“学び”“修めて”欲しいと思います。



旅行先にて(写真中央)

いま、在学生に伝えたいこと

大学院海洋科学技術研究科 応用生命科学専攻3年

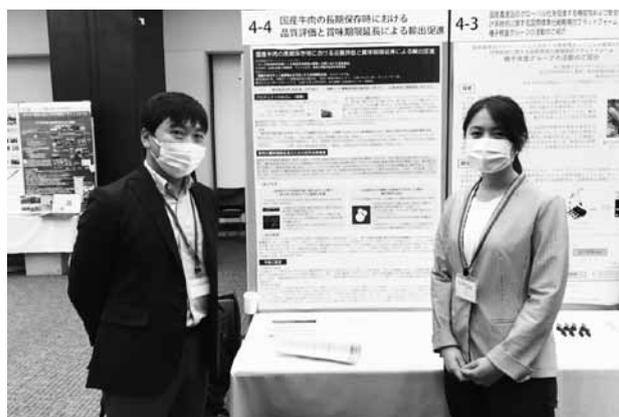
中村 綾花

私は、19歳から27歳までの9年間、人生の3分の1にあたる時間を東京海洋大学で過ごしてきました。今振り返ってみると、特に研究室で過ごした6年間は、これまでの人生の中で最も刺激的で大きく成長できた素晴らしい期間であったと断言できます。限りある学生生活の中で、何に重点を置くべきかを私なりに結論づけたので、在学生の皆さんに共有したいと思います。

まず前提として大事なことは「知識に貪欲になること」だと思います。現代は情報が溢れ、スマホでなんでも調べることのできる時代です。自分を取り巻くすべての環境について興味を持ち、知識を更新することを忘れないでください。更に、大学内には各分野の有識者である先生方がいらっしゃいます。興味を持ったこと、疑問に感じたことをすぐに質問できることは学生の特権です。蓄積した知識は自分にとっての財産であり、いつか想像もしない状況で役に立つでしょう。

そして、最も重要なことは「常に考える習慣を身に着けること」だと思います。インターネットで調べても答えのない問いに向き合うことこそ、学生生活、更には人生そのものを切り開いていく鍵となります。自分は何のために大学に進学し、今この時間をどう過ごすべきなのか、常に将来を見据えて行動すれば、有意義な学生生活につながると思います。一方で、ただ黙々とひとりで考えるだけでは、新しい発想や思考は生まれません。そのため、大学ではより多くの人と交流し、様々な経験をしてください。そこで出会う新しい人脈や価値観は、人生をより豊かなものにするはずですよ。

偉そうなことを書きましたが、私もまだまだ修行中の身です。「現在^{いま}」はすぐに「過去」と自分に言い聞かせ、理想の将来像に向かって前進していきましょう！



ポスターセッション会場にて(筆者右)

卒業特集

卒業、修了する
先輩留学生から在學生へ

一緒に乗り越えましょう！

海洋生命科学部 海洋生物資源学科4年

朱 迅 霏

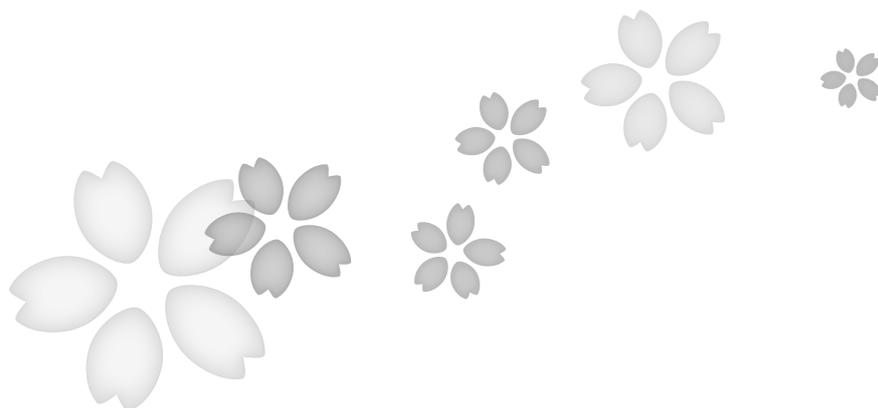
12 海洋大留学生の皆さん、いかがお過ごしでしょうか。今年といえば、やはりコロナ禍ですよね。日本だけではなく、全世界においても、不安に陥っています。コロナの収束はまだ見えぬうちに、入学や卒業が近づいています。私も今年卒業生になります。コロナがあったにも関わらず、4年近くの充実大学生活を送っていました。大満足だと言っても過言ではありません。そこで、卒業留学生として、自分なりの経験やアドバイスを伝えさせていたきたいです。

まずは日本語力と英語力を高めてみましょう。日本に未だ入国になっていない方にとっても、既に日本で暮らしている方にとっても、言語力は大切だ。研究生生活においては、さすがに母語だけは足りないと思います。海洋

大においては、さまざまな国からの方が大勢いらっしゃいます。それによって、普段英語や日本語を生かしてコミュニケーションする部門・研究室があります。自分現在のいる場所と関係がなく、会話は人の距離を縮めることだ。異なる国で暮らしても、友達になれるものです。対面できないからこそ、会える日はさらに楽しめるでしょう。

日本にいる方も、しっかりコミュニケーションを取りましょう。先輩と先生の経験が豊富なので、必ず勉強になれると思います。友達を多く作って、生活を楽しみましょう。また、研究中には、失敗がたまにもあるでしょう。これらの失敗を経験にし、挫けないように、前に踏み出しましょう。

以上、自分なりのアドバイスですが、参考になれば嬉し限りです。



卒業する先輩留学生から在学生へ

大学院海洋科学技術研究科 海運ロジスティクス専攻2年

王 易 石

私は、中国の雲南省の州都である昆明で生まれ、育ちました。雲南省は中国の南西部に位置していて、南は東南アジアに接しています。海の全くない内陸の州で、私は逆に子供の頃から海に対して強い憧れを抱いていました。そのため、大学は海に囲まれた海南島にある海南大学へ進学しました。大学卒業後は、大学で学んだ日本語の能力を生かして、東京で働いていましたが、その会社は海とは全く関係がありませんでした。海の現場に戻ってみたいという思いが募ってきた頃、同じ大学を卒業して、東京海洋大学の大学院へ進学した先輩が、水中文化遺産の法学研究で博士号を取得して、中国の大学に戻るようになりました。

その先輩の研究成果も刺激となり、東京海洋大学大学院海運ロジスティクス専攻に入学、水中文化遺産の研究を始めました。海洋人類学研究室の岩淵聡文教授がちょうど、国連やユネスコと協力して全世界の水中文化遺産であるところの石干見の通文化研究プロジェクトを



海南島の石干見（石沖）

立ち上げるところで、私も海南島の石干見（石沖）を研究テーマに選択しました。海南島北部で石干見のフィールド・ワークを実施したところ、それが「世界初」の海南島における石干見の調査であると知ってとても驚いた一方で、世界をリードする研究の一翼を担っている責務も感じています。修士課程修了後は、博士号を目指し、さらに前進していきたいと思っています。



退職の年を迎えて

退職なさる

教職員の方々より一言

「人生、わらしべ長者が如く」



海洋生物資源学部門 教授

東海 正

1991年4月に水産庁の研究所から出向で当時の東京水産大学に助手として赴任してから30年以上になりました。振り返ってみると、高校時代に公害や200カイリの問題を目の当たりして自分も何か役に立てるかなとは思ったものの、大学入学後は人間ひとりの力が小さいことに無力感を味わった。水産行政で役に立てればと思ったものの、国家公務員採用試験の2次に学部4年と大学院修士1年の2回も不合格となり、挫折。そうこうするうちに、大学院で研究の面白さに目覚め、修士2年で同試験に合格した際には研究職を志望。でも希望とは別の海区の研究所に配属。ともかく資源生物の生態や管理を研究しようと思ったところ、沿岸の現場では底曳網が大量に小型魚を投棄しているのを見て、網目選択性など投棄魚削減の研究を行うことに。幸いにも、投棄魚削減のための網目拡大は各地で導入された。

こうした研究が縁で本学に来ることになり、様々な漁具選択性の研究や混獲削減の技術開発にも取り組んだ。練習船で大学院生対象の資源調査実習を行うなか、クジラの資源量推定法である船上からの目視観測を取り入れようとしたが、さほどクジラに出会うはずもなく、代わりに漂流ごみを調査対象に。それが基になり環境省から漂流する海洋プラスチックごみとマイクロプラスチックの調査を受託して、地球規模の海洋プラスチックの環境問題に関

わることになった。

今となっては、海と魚、漁業や水産資源、海洋環境の問題に少しは役に立てているかと思うと、人生は思った通りではないが、さほど捨てたものではなく、勉強してそれなりに面白く過ごせてきたかなと思います。いろいろなヒトに出会い、助けてもらったことには、感謝の言葉しかない。

学生諸君も、人生には紆余曲折ありますが、思わぬ方向での発展を楽しんでください。

定年に想う



海洋生物資源学部門 教授

田中 栄次

水産大に入学した昭和53年は世界中が200連になった翌年の大混乱の中で、何故か水産大が大人気となり入試も芸大に次ぐ高倍率となり、よく入学できたものです。海が狭くなり資源開発より持続的利用、資源管理への転換期でした。そういう訳で水産大に資源管理学科が創設され、大学院で資源管理の研究で学位を得た私は運よく同学科の助手として採用されました。資源管理はタフな仕事ですが、大学院当時から戦後の1時代を築いた故田中昌一教授や故長谷川彰教授らに目をかけて頂き、そのおかげ様でいろいろなことを教えて頂きました。振り返って考えると私の先生は小学校のころから良い先生ばかりでした。

私の研究は沿岸で行われている努力量管理による資源

管理から始まりましたが、本学就任後まもなくIWC等の科学小委員会に日本国政府代表として出席することになり、その後20年近く沿岸資源と国際資源の二股をかけることになりました。2019年に努力量管理の基礎とする漁業法が改正され国際的漁業では標準的なMSYを基礎とした漁獲量管理が融合されましたが、日本の努力量管理と国際的な漁獲量管理の両方を知る人材が乏しく、昨今は水産政策審議会などの会長も務めております。人生何が幸いするかはわかりませんが、前向きに取り組んでいれば強運もついてくる、そんないい時間を頂いたように思います。本当に長い間、ありがとうございました。

海洋大生は海に行きましょう！



海洋生物資源学部門 准教授
藤田 大介

私が東京水産大学（半年後に東京海洋大学）に赴任したのは平成15年です。北海道大学の出身なので、Clark 博士（私は5代目）の Boys, be ambitious! という言葉が頭から離れないのですが、奇しくも赴任の年に東海道新幹線品川駅が開業し、Ambitious Japan! のメロディーが流れていたのが思い出されます。歌はともかく、本学は品川や天王洲アイルから国内、世界の各地に行ける日本で最も便利な大学です。おかげで、これまで70余名の学生諸氏と各地の海を訪れ、藻場や磯焼けの実態を探り、藻場の回復や造成に取り組むことができました。房総半島や三浦半島、伊豆半島などは日帰りも可能ですが、こんな身近な海でも磯焼けが深刻になり、漁業者の減少、高齢化、兼業化が進み、漁業資源を育む藻場の維持管理が困難になっています。海洋大は海の仕事の担い手や経験豊富な指導者を育成していく使命があると思うのですが、残念なことに、本学では教員や学生の海離れ、水産離れが進んでいます。海から離れたら本学の存在価値は全くありませんし、研究室に閉じこもっていてもいい知恵は浮かばず、使える技術も生まれません。これからの時代を担う皆さんは、「研究者の研究者による研究者のための研究」に終わることのないように、「学問栄えて産業滅びる」ことのないように、海に出かけ、真摯に海と、そしてそこで働く人々と向き合って研究して下さい。

本学での教員生活を振り返って



海洋電子機械工学部門 教授
釜田 和利

私は長年勤務しておりました海運企業を退職後に、ご縁を頂き令和2年4月に本学海洋工学部に着任致しました。大変短い期間でございますが、このたび定年退職を迎えることになりました。着任してからは初めて経験する大学教員としてしっかり対応できるかという不安に加えて、コロナ禍の中での感染予防対応も合わさりかなりのストレスの毎日でしたが、あっという間の2年間でした。その中でも本学の先生方や学生との交流が出来たことやゼミ学生の卒業研究の指導に携わることができましたことは、私の大変貴重な経験となりました。特にこの困難で大変な時期に卒業研究を成し遂げ、就職活動も採用内定を獲得できたゼミ学生の方々には、若い刺激と勇気を頂きました。

コロナ禍が終焉し一刻も早く本学が平穏を取り戻されることを祈念しつつ、在職中お世話になった先生方、事務職員、学生の方々に感謝申し上げるとともに、皆様のご多幸と本学の一層のご発展をお祈り申し上げます。



定年を迎えて



海洋資源エネルギー学部門 教授

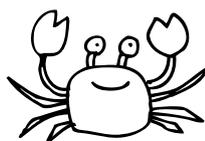
池谷 毅

私が東京海洋大学に参りましたのは2016年4月で、それまでは、民間企業の技術研究所に30年間勤務して、海洋構造物・沿岸構造物に関連した研究開発に従事しておりました。海洋大では、主に洋上風力発電設備や津波防災に関連した研究を担当させていただきました。

大学改革準備室に所属した1年間の準備期間の後に、海洋資源環境学部が創設されると同時に、本格的に教育研究活動に従事させていただきました。民間企業で経験したことを学生諸君に伝達をし、海洋産業への橋渡しができればと意識しておりましたが、かなりの数の学生がこの分野に進んでくれたことを嬉しく思います。最後の2年間は、学科主任として、学科の運営にも微力ながら参画させていただきましたが、コロナ禍により思うに任せぬ対応になってしまったことをお詫びいたします。

今後、あと2年間再雇用で勤務させていただく予定です。海洋資源エネルギー分野が海洋産業としてより確実な歩みができるよう、教育研究を楽しんでいければと考えております。

これまで、お世話になりました皆様方に感謝申し上げるとともに、今後の東京海洋大学のますますの発展と皆様方のご健勝を心からお祈り申し上げます。



環境と開発、どちらに軸足をおくか?



海洋資源エネルギー学部門 教授

鶴 哲郎

2017年4月に海洋資源環境学部が設置されたことに伴い、海洋大に採用して戴きました。もう10年くらい前のような気がします、まだ5年しか経っておらず、それもそのはず、私の研究室にも第一期生の学生さんがまだ在席してくれています(笑)。

「環境と開発、どちらに軸足をおくか?」これは着任後初めての授業、海洋資源環境学概論で当時1年生だった皆さんに問いかけた言葉です。その後、毎年、同じ言葉を1年生の皆さんに問いかけてきました。答えはもちろん、「それは自分が決めること」です。環境が破壊されれば生きて行けません、しかし、開発をしなければ豊かな生活はできません。ですから、どちらに軸足を置いても両方大切であり、両立こそが望ましい、、、と、口で言うのは簡単ですが、容易でないことは皆さまがよくご存知の通りです。

この2年間、私達は新型コロナウイルスに苦しめられてきました。通学すら許されなかった時期、一旦対面授業が開始された時期、再び自宅でのオンライン授業に戻った時期、思い描いていた学生生活とはかなり違う毎日だったと思います。私達教員も同じです。しかし、苦しめられた分、感染対策と経済活動の両立について考える機会も多かったのではないのでしょうか?これはまさに環境と開発との関係と同じです。皆さんが自分の軸足と他方の足と、2本の足でしっかりと地面を踏んで進んで行かれることを願っています。Good luck!



In the Year of Retirement



海洋資源エネルギー学部門 教授

Yuttana Theparoonrat

After graduating from Tokyo University of Fisheries (TUF), I returned back to Thailand and worked with the Southeast Asian Fisheries Development Center (SEAFDEC) for 30 years. Presently, I have joined the Tokyo University of Marine Science and

Technology (TUMSAT) as visiting Professor for two years. The name of University is different but the place, atmosphere and impression are still the same as last 30 years ago. My memories of daily life during study in this University are still fresh in my memory.

Working at SEAFDEC with collaboration fisheries agencies of ASEAN Member countries, Local, Regional and International Fisheries Organization on the fisheries development and management are the major roles of SEAFDEC. The fisheries management in most of international waters and high seas are responsible by The Regional Fisheries Management Organizations (RFMOs), such as The South Pacific Regional Fisheries Management Organization (SPRFMO), North Pacific Fisheries Commission (NPFCC), The South Indian Ocean Fisheries Agreement (SIOFA), The Western and Central Pacific Fisheries Commission (WCPFC), Indian Ocean Tuna Commission (IOTC), Commission for the Conservation of Southern Bluefin Tuna (CCSBT), etc. However, the areas of South China Sea and Andaman Sea belong to each country's Exclusive Economic Zone (EEZ). There are no RFMOs to manage the fisheries resources and utilization in these areas. The Southeast Asian countries utilize sharing fisheries resources with migrated across nearby countries waters. Then, collaboration and agreement on fisheries resources management and conservation among the ASEAN and SEAFDEC Members countries are a very important task of sustainable utilization of fisheries resources in this area. Japan is a member of SEAFDEC and fully involved in the various activities concerned with fisheries resources utilization and management for ensuring sustainable utilization and development. I do hope that some TUMSAT graduate students will have a chance to work with ASEAN Member countries as representatives from Japan to make development on fisheries resources management and conservation for sustainable utilization.

Among Thai students who graduated from Tokyo University of Fisheries (TUF) and Tokyo University

of Marine Science and Technology (TUMSAT) are setting up a society on Line Application namely "TUMSAT/TUF Alumni (50)" with link address of <https://line.me/R/ti/g/s7KVva3ecwL>. If some of you have an opportunity to work in Thailand, we would like to invite you to join our society through the above Line address for our good collaboration, communication and enjoyment.

定年の年を迎えて

理事・副学長(総務・財務担当)・事務局長

堀内 敦

この度、令和4年3月で定年を迎えることとなりました。東京海洋大学には平成31年4月からの3年間お世話になりました。この3年間は事務局長としてこれまでの経験を生かした集大成として臨み、学長を支え、教職員の皆さんが真に働きやすい職場にすることを目指して日々の業務に従事したいと考えておりました。しかし、ご存じの通り令和2年に入り新型コロナウイルスの感染拡大が全世界を驚愕させ、日本でも日々の生活を一変する事態となりました。その制約の中でどのように学生や教職員の皆さんの感染を抑えるのか、試行錯誤が続きましたが、竹内前学長、井関現学長はじめ執行部及び部局長、関係者が集まり対応を議論したことは今でも鮮明に記憶しております。特に授業の遠隔化については、慣れない先生方がオンラインで授業を実施するなど大変な苦勞をされたことと思います。お陰様で現時点まで本学からのクラスター発生もなく大学機能を維持継続できるのは学生、教職員の皆さんの努力と協力あってのことと改めてお礼申し上げたいと思います。



東京海洋大学は海洋、海事、水産に係る我が国唯一の海洋系大学として食糧問題、気候変動、海底資源など地球規模の多くの課題に対し世界的な研究を行うと共に、国際的に活躍できる人材を育てることで未来に貢献できる大学です。

そのような素晴らしい東京海洋大学の一員でいられたことを誇りに思うと共に、これまでお世話になった方々に改めて感謝申し上げたいと思います。

定年後は少し離れた所から応援団として引き続き東京海洋大学の活躍を見守って参ります。皆様のご活躍を期待しております。ありがとうございました。

退職の年を迎えて

総合情報基盤センター 技術専門職員

徳永晴徳

本学には38年間お世話になりました。

採用された当時は、電子計算機室で三菱電機社製のMELCOM COSMO 500という汎用機を扱っていました。スペックは今のパソコンよりもかなり低く、主記憶メモリー容量が256KBというものでした。データ入力やデータ保管、データ処理を行う記憶媒体は紙のパンチカードでした。

データを作成したり修正したりする際に使うパンチカード穿孔機があるのですが、磁気を扱う機器とは違い、パンチカードを穿孔印字する機械ですので、機械的な故障が多く、とても悩ましかった記憶があります。

汎用機時代は、Fortran言語を勉強し、主にデータ処理を行っていました。

その後、UNIXのOSが主流となってからはネットワークが普及し、業務の視野が広がってきました。

そして、Windows95の登場により、パソコンが一段と身近になり、データ計算処理から情報処理に変わっていき、その時代の流れに直に接することができて、いろいろと学ばせていただきました。

総合情報基盤センターでは、教職員や学生さんと接する機会が多く、有意義に培うことができました。またセンター職員の方々には大変お世話になり、持たれているスキルに魅入ることもあり、とても励みになりました。特にUNIXにはとても感化され、サーバ・ネットワーク運用業務にも役立つことができ、感謝しております。

これからの東京海洋大学のますますのご発展をお祈り申し上げます。

有難うございました。

退職の年を迎えて

船舶・海洋オペレーションセンター 教授
海鷹丸機関長

北野庸介



本当にあっという間に定年を迎えました。若いときは定年退職の方々の「あつとい う間」という言葉を冷やかに聞いていたものですが、今はまさしくそのとおりであると実感しております。

神鷹丸三等機関士として赴任してきたときは練習船勤務について自身に不安感を持っておりましたが、4月の新入生クルージング航海を重ねるうちに、「海洋・水産分野に直接触れる最初の機会であるこの実習航海は、新入生の方々にとって今後の人生方向を決める体験となるかもしれない。」ということに気付いてきました。その責任の重さにある種の怖さを持ったと同時に、職業人として気を緩めることなく務めなければならないと心が据わったように記憶しております。

また、私は偶然にも廃船・新船に縁があり、新船数ヶ月の旧神鷹丸赴任に始まり、旧海鷹丸廃船・代船建造、旧神鷹丸廃船・代船建造と乗り合わせ、船員として運航以外の業務は大変貴重な経験でありました。特に現神鷹丸代船建造では同僚と二人で8ヶ月近く建造造船所に詰めて現場監督業務を務め、残務整理で残った我々は引き渡しのために東京に向かう新しい神鷹丸を岸壁から見送り、ささやかながらの達成感と安堵感を覚えたことは今も心に残ります。

今日、無事定年の日を迎えることができましたことは、ひとえに皆様のご厚情によるものと深く感謝申し上げます。長い間誠にありがとうございました。

大学院紹介

海洋システム工学専攻／海洋生命資源科学専攻／応用生命科学専攻

海洋システム工学専攻 —博士前期課程—

海洋電子機械工学部門 教授
塚本達郎

海洋システム工学専攻は、海洋電子機械工学部門に所属する教員による動力システム工学、海洋機械工学および海洋サイバネティクス3つの専攻分野と国立研究開発法人海洋研究開発機構との連携講座である海洋探査・利用工学の併せて4つの専攻分野で構成されており、船舶はもちろん海洋観測や海洋調査に使用される作業機器、海洋構造物などを構成する機器・機械について、エネルギー工学、システム工学、環境工学、安全工学などを中心とする学問体系の中で、開発、設計あるいは製作技術についての教育研究を行っています。定員は19名となっています。

動力システム工学専攻分野では、蒸気タービン、ディーゼル機関、電気動力などの船舶で使用されている動力源や冷凍・空調機器について、環境保全および省エネルギー技術について基礎から応用までの教育研究を行っており、例えば、船舶の電化と省エネに関する研究、気液二相流動構造の計測方法やモデリングに関する研究などを行っています。

海洋機械工学専攻分野では、海洋機械・機器の設計開発に不可欠な機械システムの強度評価およびトライボロジー特性評価、各種材料の腐食環境下での性能・強度評価、環境調和型エネルギー変換システムの先端技術とその基礎となる熱流体エネルギーの変換と伝達、先端材料の基礎物性とその応用、物理現象の計算機シミュレーション、最新設計手法と加工などに関して教育研究を行っています。

海洋サイバネティクス専攻分野では、制御工学、情報工学、電気・電子工学、大気環境物理学などについて基礎から応用までの研究を行っており、自律航行水中ロボット

の自動制御システム、AIを活用した障害物検知システム、音響を活用した遠隔自動操船支援システム、衛星データを用いた気候変動の要因解析などが研究テーマとなっています。

連携講座である海洋探査・利用工学専攻分野では、海中の生物や資源の探査・海中作業などのための有人・無人潜水探査船の開発、海中物体や海中環境の音響を用いた調査技術の開発やメガフロートや波力発電のような構造物による海洋利用技術について研究しており、浮体の運動特性に関する基礎的研究や水中音響通信に関する研究などをテーマとしています。

最後に私の所属している内燃機関工学実験室では、大型商船の主機関として利用されている船用2ストロークディーゼル機関(写真)、発電機関として利用されている船用4ストロークディーゼル機関、噴霧燃焼の基礎研究のための高圧燃焼容器などを有しており、ディーゼル機関排ガスの有害成分の排出特性や削減方法に関する研究を行っています。最近の修士論文のテーマとしては、静電集塵とサイクロンによる排気中の粒子状物質削減、炭化水素の排出特性とその粒子化などがあります。研究に興味のある方は、是非大学院への進学を考えてください。



海洋生命資源科学専攻

海洋生命資源科学専攻 専攻主任 教授
濱崎 活幸

海洋生命資源科学専攻は、3つの専攻分野（水圏生物科学、生物資源学、海洋生物学）で構成されています。当専攻では、海洋生物の生理・生態を基礎として、それら生物が海洋で生活できる特殊な仕組みの解明やその特徴を活用した生物資源の管理と修復保全、収穫システムや増殖生産、環境計測や有益環境の創出等、生物生産に係わる総合的な高度利用に関する学理と技術を教育研究します。

水圏生物科学専攻分野では、海洋生物の生命現象の解明とその生命システムなどの理解を通じて、絶滅危惧種の増産も可能にする「借腹」種苗生産技術の開発、環境共存型養殖のための飼料開発、完全循環型の養殖工場の設立、海藻の特性や機能の有効利用とその応用による有益な海洋環境の創出を目指す技術開発、分子育種や分子疫学による生物生産の安定化技術開発、極限環境に生息する生物の特性利用技術開発、生物機能を利用した環境計測や修復技術の開発等を行い、生物生産の高度利用への応用が可能な教育研究を行います。

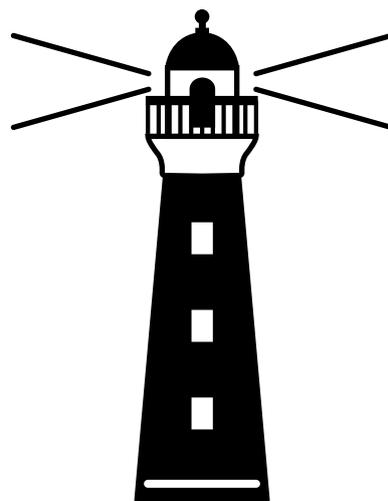
生物資源学専攻分野では、海洋生物の個体群ダイナミクスや集団遺伝、資源培養、行動・成長・生残・回遊等の生態特性および漁獲過程等の学理を基礎として、環境と調和した海洋生物資源の持続的利用と生物多様性の維持保全に関する分野を対象とします。具体的には、種の分化や系統進化、資源の系群構造の解明と増殖保全、栽培漁業や漁業・遊漁の影響評価、生態系や地球環境と資源変動との関連、混獲防除や選択漁獲といった合理的な漁獲技術の開発を通じて、資源開発と管理システムを構築し、生物資源と人間の共生へ応用するための教育研究を行います。



タイ王国との共同研究での研究対象種の1つであるアジアズキ（パラマンディ）（海洋生命資源科学専攻 市田健介助教提供）

海洋生物学専攻分野では、海洋には水産生物だけではなく、鉱物などの多様な海底資源が存在します。これら資源の有効利用を可能にするためには、水産学と工学とが融合したバイオエンジニアリングやバイオテクノロジーの先端的技術について、基礎から応用までを幅広く理解することが必要です。当分野では漁場環境の保全ならびに食品として安全な水産物を生産し流通するための養殖管理技術、魚介類有用遺伝子の機能解析とその応用に関するゲノムサイエンス、有用微生物の探索およびそれらの機能解析や応用などについて教育研究します。また、生物を利用した海洋のエネルギーや鉱物資源開発などについての応用研究も目指します。

本専攻では、所属教員を中心として、国内外で多くの研究プログラムが展開されています。特に、東南アジア諸国の大学・研究機関との魚介類の生産・保全にかかわる国際共同研究が展開されており、多くの大学院生も現地での共同研究に参画しています。修士課程終了後は、博士後期課程へ進学し、さらに博士研究員として相手国側で研究活動に従事するなど、国際的に活躍する若手研究者も多く輩出しています。



応用生命科学専攻紹介

応用生命科学専攻 専攻主任 教授
廣 野 育 生

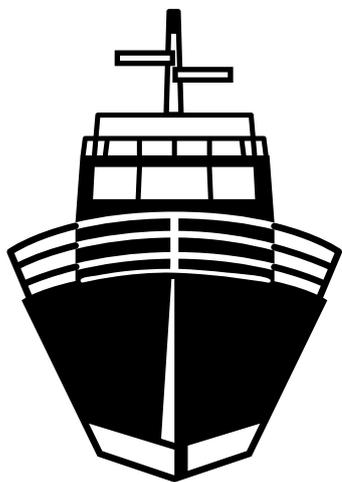
大学院修士課程に進学する学生は学部生のおおよそ6割程度ですが、博士課程に進学する学生は修士課程進学者ほど多くはなく、応用生命科学専攻の学生定員は19名です。博士課程学生の多くは修士課程からの進学者ですが、社会人の方が会社に席を置いて博士課程に入学されることもあります。日本では博士の学位を取得しても大学等に就職すること以外では必要になることは少ないように思われますが、海外では研究職に就くのであれば大学に限らず民間企業でも当然のように必要となっています。日本でも最近では博士の学位を有している研究者を積極的に採用する企業も増えてきているように感じております。民間企業も研究職の方は博士の学位を持っておられる方が多いです。

本学では大学院海洋科学技術研究科博士後期課程において、応用生命科学専攻と応用環境システム学専攻の二専攻があります。応用生命科学専攻は応用生物科学、食品機能利用学と応用生物工学の3専攻分野に加えて、国立研究開発法人水産研究・教育機構および国立研究開発法人海洋研究開発機構との連携大学院講座として魚類生

理機能学、応用資源動態学、水産資源生態学、深海生物学、水産生物機能学の研究分野より構成されています。

応用生命科学専攻では、海洋生物の生理・生態・機能を総合的に解明し、海洋生物資源の確保・維持管理、安全かつ高品質の海洋生物資源の増産や、海洋生物の特異機能を応用した物質生産と次世代型機能性食品の創製など、海洋生物資源の持続的生産と高度な有効利用に応用するための先端的学理と技術開発を目指した教育・研究を行っています。具体的に、「応用生物科学」専攻分野では、海洋生物資源の持続的利用を目的として、生態系と環境との係わりを重視した海洋生物資源の確保・維持管理、安全かつ高品質の水産食資源の増産、海洋生物の特異機能を利用した有用物質生産等に関する先端的な教育研究を行っており、「食品機能利用学」専攻分野では、水産食品だけでなく他の食品一般にも適用可能な安全性評価システムの確立、安全性確保・向上技術の開発、安全かつ機能性に富む食品の設計技術の確立へ応用するための先端的学理と技術開発について教育研究を行っています。また、「応用生物工学」専攻分野では、バイオエンジニアリングやバイオテクノロジーの先端的技術を駆使して、安全な水産物を生産し流通するための養殖管理技術、魚介類有用遺伝子の機能解析とその応用に関するゲノムサイエンス、有用微生物の探索およびそれらの機能解析や応用などについて教育研究を実施しています。

学生の皆様は、研究が楽しいと思うことがあれば、まずは博士の学位取得を目指してみませんか。博士課程を終了しても年齢はまだ30歳前で、その後、30年以上仕事をすることになるのですから、楽しいと思えることが仕事につながるというのは大切かと思います。これからの水産・海洋学研究や関連産業を担い、国内外で活躍できる人材を目指してみてもはいかがでしょうか。





グローバル人材育成プログラム

海外とのオンライン交流で得た大きな学び

海洋生命科学部 食品生産科学科3年

川野桃子

私は海外探検隊EASTプログラム2021に参加し、シンガポールにあるPrime Aquacultureの博士の協力のもと「解決策としての陸上養殖」をテーマに、タイにあるプラパ大学の学生と12月に2週間オンラインで交流を行いました。これはJSTのさくらサイエンスプログラムで、学年学科の異なる22名の学生が5グループに分かれ、異なる大陸の陸上養殖の事例から、背景も踏まえて日本とタイの社会問題を陸上養殖で解決する方法を考えました。そして、最終日にプレゼンテーションを行いました。また、交流の前には私を含め3名の学生で北海道の神恵内村を訪れ陸上養殖の調査を行い、交流初日に日本の事例として紹介しました。

私はプレゼンテーションの準備にあたって日本では当たり前に行われていることがタイでは当たり前なのかを考えさせられ、普段の授業にはない難しさを感じました。一方で、多様な方々と交流を深めるための工夫の方法や必要な心がけの学びに繋がり、多様な社会を生きるための良い経験になったと感じております。また、プログラムを通じて物事の背景を考える大切さに気づかされたり、日本とタイの関係について深く知ることができたりと、陸上養殖以外にも多くの学びや気づきを得ることができました。

最後に、このような貴重な機会を提供して下さった全ての皆様に、心から感謝申し上げます。



筆者は上段中央

コロナ禍での海外留学

大学院海洋科学技術研究科 海洋生命資源科学専攻1年

小林 葵

2021年9月2日、本学の海外派遣プログラムOQEA NOUSでの韓国海洋大学校へ留学のため、日本を出発しました。

世界的な新型コロナウイルスの流行開始から2年の歳月が流れようとしています。変異株の出現や各国の感染状況の変化などから、現在も国外への渡航は厳しい状況にあります。そのような状況下で海外留学に挑戦することは、読まれている皆様の想像に難くない通り、簡単ではありませんでした。しかし、今回の留学は、紛れもなく新型コロナウイルスの影響を受けて挑戦を決意したもので、コロナ禍での留学だからこそ得られたものも多くあるように感じています。

2020年の一年は、多くの方が自分の生活について考え直す時間を予期せず得たのではないのでしょうか。私もその一人で、自粛を求める社会と自分の理想とする学生生活との間で、納得のいく日々を送ることが出来ずにいました。大学卒業の春になっても状況の改善は見られず、再び消化不良な毎日が始まり貴重な学生生活を摩耗することへの不安から、海外留学を決意するに至りました。日々刻々と渡航情報は変化し、不確定要素も多く、留学を決意してから出発までの数ヶ月は目が回る忙しさだったと記憶しています。そのような中で、本学の留学担当係の皆様や友人達には、手続き面でも精神面でもとても支えられ、周りの方々無しで今回の留学は実現し得なかったと明言できます。

留学期間中、異文化に触れ韓国の大学で学ぶことは数多く、勉強の毎日であることは言うまでもありません。勤勉な学生達と研究することが大変に感じることもありましたが、励まし合った韓国の友人達と、日本から応援して下さった周囲の方々のおかげで一つずつ超えていくことが出来ました。困難な状況下で留学に挑戦したこと自体の価値と、支えてくれる多くの仲間存在を感じられたことは、これからは失うことのない自分の財産になりました。健康に帰国することを目標に、残りの日々を楽しく過ごしていこうと思います。



釜山タワー



海洋工学部国際交流プログラム

海外インターンシップでの経験

海洋工学部 流通情報工学科2年

松田 虎太郎

「海外インターンシップ」、なんてカッコいい響きだ。これが、海外インターンシップに参加したいと思ったきっかけです。改めて考えてみると、本当に単純な動機だったと思います。このインターンシップは、本来は3年生対象のプログラムでしたが、今年度は2年生にも参加のチャンスがあったので、思い切って一番興味を感じた、SOMPO CHINAのインターンシップに応募しました。

今年はコロナの影響のため、初のオンライン開催となり、私たちはパソコンの画面越しでの参加となりました。本インターンシップは2週間で、最初の1週間はリスクマネジメントをはじめとした様々な講義を受けました。残りの1週間では、現地の学生と共に、普段は社員が行う「記事執筆」の業務を任せられました。すべてをやり遂げたときの達成感は今でも忘れられません。

この海外インターンシップで、私はものの見え方が大きく変わりました。流通情報工学科の学生にとって、将来の進路は本当に多様だと知ることができました。今回得た知見や経験は、私にとって大きな財産となりました。勇気を出して、本インターンシップに挑戦して本当によかったと思います。

この原稿では、あえて本インターンシップについて詳しく記載していません。それは是非皆さん自身で体感し、先入観なく感じて欲しいからです。挑戦のきっかけは私のように、些細なことで構いません。面白そうだと感じたら動き出してみてください。必ずあなたのターニングポイントになるはずですよ。



ミーティングの様子

海外インターンシップに参加して

海洋工学部 流通情報工学科3年

田中 慎也

私は2021年8月に1週間、日立物流の海外インターンシップに参加しました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、東京からオンライン会議システムを利用して参加しました。インターンシップでは、日立物流の沿革に関する座学や270°シアターを利用したスマートウェアハウスの見学、安全活動に関する講義、流通情報工学科の卒業生との座談会、マレーシア現地法人との会議に参加させていただくなど、盛り沢山の経験をしました。様々なプログラムがあった中で特に印象に残ったプログラムを2つ紹介します。

1つ目は安全活動に関する講義です。この講義では、日立物流が海外現地法人の物流現場で行っている安全活動について勉強しました。3年前期に履修した「作業管理工学」の内容ともリンクする点が多く、今まで授業で学んできたことの実用性を改めて感じました。

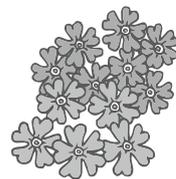
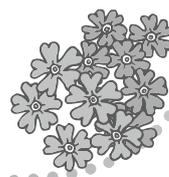
2つ目はマレーシア現地法人との会議です。前半はマレーシア社員からマレーシアにおける物流の概要の講義をしていただき、後半はマネージャーズミーティングに参加させていただきました。日本との違いを理解した上で、現地に指示をする管理業務について学ぶことができました。それと同時に自身の語学力の未熟さを痛感し、学生でいる間により語学に打ち込みたいと思うきっかけにもなりました。

最後になりますが、本インターンシップ開催にあたってご協力いただきました、日立物流の皆様、流通情報工学科の教職員の皆様に改めて感謝申し上げます。



流通情報工学科卒業の先輩社員との座談会

卒業生より



業界で活躍している OB・OGの方々

日本の水産行政の最前線

2017年3月 海洋科学部海洋政策文化学科 卒業
2018年3月 水産専攻科 修了
2020年3月 海洋科学技術研究科 海洋管理政策学専攻 修了
2020年4月 水産庁 入庁

村井彩子

私は学部卒業後、水産専攻科（今の海洋科学専攻科）に進学し、大学院（水産経済分野を専攻）を修了した後、水産庁に就職して技官として働いています。

水産系の学生さんであればよくお分かりだと思いますが、ここ数十年は水産物の生産量の減少傾向が続いており、加えて最近では北海道の赤潮や福徳岡ノ場からの軽石流出などの事態も生じていて、現場にとってはとても厳しい状況にあると考えられます。

日本の水産業を良くしていくために、行政においては様々な方策が取られているところです。私の今のポストで近いもののひとつはIT機器や情報技術を駆使して資源管理と両立した漁業や持続可能な養殖等の効率化を図っていく「スマート水産業」の取り組みです。

近年は水産分野でも様々なセンシング機械やそれらに付随するソフトウェア等が活発に開発されており、現場への導入も進められているところです。水産庁としてはそういったものの動向を日々ワッチしつつ、現場へ取り入れるための様々な活動を行っているところです。

一方、私の普段の業務としては内外への説明用の資料作りや事業の発注手続きなどを担当しています。公文

書の書き方には細かいルールがあるほか、詳しく書き切れないことも考える必要があります。実際、研究分野とは異なる文章の書き方に悪戦苦闘し、失敗することも多々あります。ですが、刊行物やHPの資料などで自分たちが関わった部分を見ると、自分たちの小さな仕事の積み重ねが庁全体、さらには行政全体の取り組みになっていくことを実感でき、頑張った良かったなと思います。時には国会等の緊急対応のため、緊張感（と職員）が走る中で仕事をすることもあり、行政の厳しさとダイナミックさを感じることもあります。

省庁の役職は外部への出向を含めて異動が多いので、どのようなポストに就いてもすぐにその担当者として職務にあたらなければなりません。なので、自分の専門が直接的に役に立つという機会は少なく、そういった点ではゼネラリスト（万能選手）としての能力が求められる面が多いのではと思います。ただし、そういった能力は自分の専門を深めたり、偶然経験したりしたことによって結果的に培われていくものだと思います。私の今の業務について、乗船実習などが直接的に関係しているわけではないですが、航海機器を扱ったことはIT技術の理解に多少なりと役に立っていると思います。

どんなことでも、頑張った経験は後の自身の強みになると思います。キャリア形成に関わらず、学生や院生の皆さんにおいては貴重な時間を有意義に過ごしていただきたいです。

学生の皆さんへ

2016年3月 海洋工学部流通情報工学科卒業

2016年4月 富士通株式会社 入社

佐藤 佑香

私は学部卒業後、富士通株式会社へ入社し現在6年目となります。富士通は、入社当初はIT企業でしたが、この5年の間に時代の流れや世の中の変化とともに会社のあり方も大きく変わり、現在IT企業からDX（デジタル変革）企業への転換を進めています。

まず、私がこの会社に就職した経緯についてお話をさせていただきます。高校のころから、何となくですが情報系の企業に就職したいという気持ちはありました。ITという分野は技術の進歩が非常に速い印象があったので、飽きっぽい自分の性格に合うだろうと思っていた記憶があります。

大学三年になる頃に、真剣に就職先を考え始めた際、やはり情報系の講義（プログラミング等）が面白いと感じていたこともあり業界をITに絞りました。また、大きな企業であれば、自分の希望していたSE職が合わなかった場合に、社内異動で別の仕事をする選択肢があると思い、推薦を利用して富士通へ入社しました。

私は、現在保守サービスの売上損益を管理する仕事をしています。保守サービスとは、ハードウェアやソフトウェアに障害が発生した際の修理やサポート対応するサービスです。リアルタイムで売上損益の状況をまとめて、予測と実績との差異を分析し改善につなげています。

正直な話をすると、私はSEになりたくて富士通に入社したので、現在の仕事は希望していた仕事とは異なります。はじめは、ある程度この仕事をマスターしたら、社

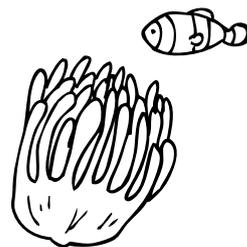


テレワークのオンライン会議中の様子

内募集で当初希望していた部署に手を挙げてみようと思っていました。しかし、今の仕事に取り組んでいくうちに保守サービスそのものの重要性や現在の仕事のやりがい気が付きました。今となっては、もっと経験を重ねてデータ分析のプロになれるよう勉強したいという気持ちが強くなっています。

最後に、学生の皆さんにお伝えできることを考えてみて、学生の頃の経験が今役立っていることについてお話します。私は、自分の性格上、できないことをそのまま放置することが今後の不安要素となりストレスになってしまうので、学生の頃から苦手や嫌いなことにあえてチャレンジしていました。些細なことですが、得意ではない海外へ旅行に行ってみたり、苦手なプレゼンに慣れるために教職をとって人前で話す機会を作ってみたり、人見知りなのにあえてバイトを複数掛け持ちしたりしていました。こういった苦手に向き合うことを続けた結果、自分の考えを会議で伝えることはもちろん、関係が築けていない人とコンタクトをとることに抵抗感がなくなり、仕事をスムーズに進められるようになってきました。（まだまだ課題はたくさんあります・・・）

以上は私の経験ですが、自分で考え行動することはいつか自分の助けになると思っています。コロナ禍で思うような学生生活がおくれない苦しさはあると思いますが、じっくり考える機会とも言えます。今何をやっておけばあとで後悔しないだろうかという視点で今後の自身の行動を考えてみてほしいのではないかなと思います。



実行委員長から

海鷹祭の紹介



第62回海鷹祭を終えて

第62回海鷹祭実行委員会委員長
海洋資源環境学部 海洋環境科学科3年

高橋 宏知

第62回海鷹祭実行委員会委員長を務めてまいりました、高橋宏知と申します。第62回海鷹祭はweb上で2021年10月29日に開幕いたしました。参加団体の皆様の多大なご協力のお陰で、オンラインショップは同年11月11日、展示は同年11月29日に好評の内に閉幕いたしました。

本年度の海鷹祭は2021年10月29日～31日に品川キャンパスでの規模を縮小した開催に向けて始動いたしました。しかし、COVID-19の感染拡大や変異株の出現によりキャンパスでの開催の可否が不透明となり、本年度6月にオンラインでの開催を決定いたしました。委員一同、キャンパスでの開催を願っておりましたが、コロナ禍でも海鷹祭を実施したいと考え、本年度の活動に取り組んでまいりました。

第62回海鷹祭では、多くの団体様がweb上での展示企画やオンラインショップにご参加くださいました。展示では海洋・生物に関する記事や写真展・活動発表・活動紹介といった企画があり、オンラインショップでは多くの参加団体様が文具・Tシャツ等のオリジナルグッズを販売してくださいました。また、実行委員会主催の企画としてs-1グランプリ・学内案内を開催いたしました。s-1グランプリは、例年シーフードグランプリとして開催され、エントリーしてくださった食販を行なう参加団体様に来場者様が投票するという企画です。しかし、第62回海鷹祭では展示企画の参加団体様がエントリーし、web上で投票を行なう展示企画グランプリとして開催いたしました。学内案内では主に受験生を対象とし、受験や学生生活に関して実行委員が

質疑応答を行なう形式で、オンライン会議アプリを利用して行なわれました。

史上初となるオンラインでの海鷹祭ということもあり、どのくらいの方が企画をご覧になってくださるのかが不安でした。しかし、最終的には展示企画の公開期間のweb会場の閲覧数は約6000回、オンラインショップは総注文数が約180件と多くの方が海鷹祭をご覧になってくださり、委員一同嬉しい気持ちです。一方で、キャンパス内でも海鷹祭のオンライン開催をご存じない方がおり、オンライン開催での広報の難しさを痛感しております。また、オンライン形式での開催でしたので、展示・物販期間を長く設けることが出来、来場者様は各企画をじっくりと見ることが出来たかと思えます。海鷹祭を通して、海洋大生の様々な活動を多くの方に知っていただけておりましたら幸いです。

コロナ禍が始まって2年が経ち、品川キャンパスでの海鷹祭運営を最後に経験した私達の代は引退となります。今後、私達を取り巻く環境がどのように変化していくのか未知な部分が多いですが、海鷹祭の運営に関して後輩たちにしっかりと引き継ぎ、またこれまでの海鷹祭に囚われない、新しい海鷹祭を作りたいと思えます。

最後になりますが、毎年海鷹祭を応援して下さる企業・組合の皆様や、本学学生を初めとする参加団体の皆様のご協力に、心から感謝申し上げます。また、前例のない開催方式であったこともあり、参加団体の皆様にご迷惑をおかけした事、お詫び申し上げます。

現1,2年生と新入生達の作る第63回海鷹祭を、どうかよろしく願いいたします。

新任教員の紹介



海洋電子機械工学部門 教授

藤田 渉

2021年10月1日付で海洋電子機械工学部門に着任した藤田渉（ふじたわたる）と申します。出身は富山県富山市（の郊外）です。大学院博士課程を修了後、国立大2校、公立大2校、私立大1校を渡り歩き、現在、本学でお世話になっています。本学はキャンパス内には雄大な明治丸があり、とても気に入っています。毎朝、朝日に映える明治丸を眺めながら、遠くへ行きたいなあ、という気分になっています。本学は立地が大変よく、最寄りには門前仲町や月島、少し歩くとお台場、築地、豊洲、銀座、日本橋、電車に乗れば数駅で、ディズニーランド、幕張、お台場などがあり、知人たちから羨ましがられています。

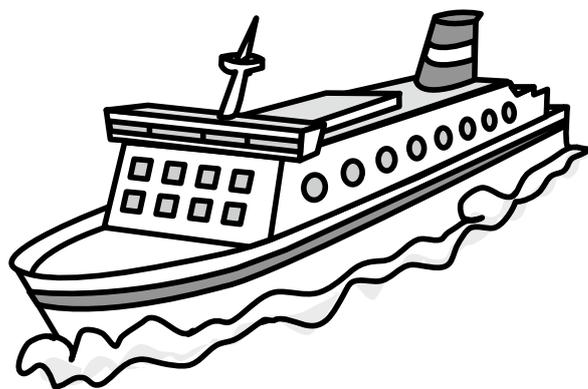
本学では主に化学系の科目を担当しています（化学熱力学（1年前期）、物質科学（2年前期）、化学実験（2年後期）、化学エネルギー変換工学（3年後期）など）。化学系科目を履修する学生さんは多くありませんが、船は動力を燃焼反応で得ていますし、化学物質の運搬などに携わる人もいますので、化学に関する知識があった方がよいのではないかと思います。化学にあまり馴染みがない人にも、わかりやすい授業を心がけるつもりです。

早朝、越中島キャンパスの奥にあるグラウンドで、本学のラグビー部員が練習しているのを見かけます。大学時代、ラグビー部に所属していましたので、練習風景を遠目に、自分の学生時代を思い出しています。実は本学のラグビー部とは縁があり、国立八大学ラグビーOB大会というイベントで、当時の水産大と何度か対戦したことがありました。ある時、水産大チームの人数が足りなくなったことがあり、水産大チームに加わって試合に出たこともありました。足手まといだったかもしれませんが、その試合はいまでも印象に残っています。

着任以来、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、授業や会議がオンラインとなっているため、現時点

（2022年2月）まで、本学の学生さん達や、組織の教員の皆さんとはほとんど顔を合わせる機会がありません。お恥ずかしい話ですが、そのため、学内のことはまだ、何もわかっていません。前年度、前々年度に入学した学生さん達が経験された孤立状態とよく似た状況では、と思っています。

最後になりますが、早くコロナが収束し、皆さんが自由に学生生活を楽しむことができる日を心から願っている次第です。



学生の

課外活動報告

ギター部

海洋資源環境学部 海洋環境科学科3年
部長 伏見 理子

28

ギター部は品川・越中島両キャンパス合わせて25人で活動しています。ギター部といっても、ギターだけでなく、ボーカル、ベース、ドラム、キーボードなどに分かれて、それぞれ好きなバンドの曲を演奏しています。主に、品川キャンパス内でフォークソング部などと合同で、年に数回ライブを行っています。去年と今年はコロナ禍ということもあり、部の醍醐味であるバンド活動や懇親目的の飲み会がほとんどできませんでした。それでも、フォークソング部と協力して部室での配信ライブを企画したり、オンライン新歓やオンライン海鷹祭に参加したりして、今年は5人の新入生を迎え入れることができました。また、12月には2年ぶりに全員参加で、かつ最初で最後の有観客ライブを行うことができました。これから、通常のライブを知らない世代のみとなりますが、配線等の運営も含めて、みんなで楽しめる部活動を行ってほしいと思います。

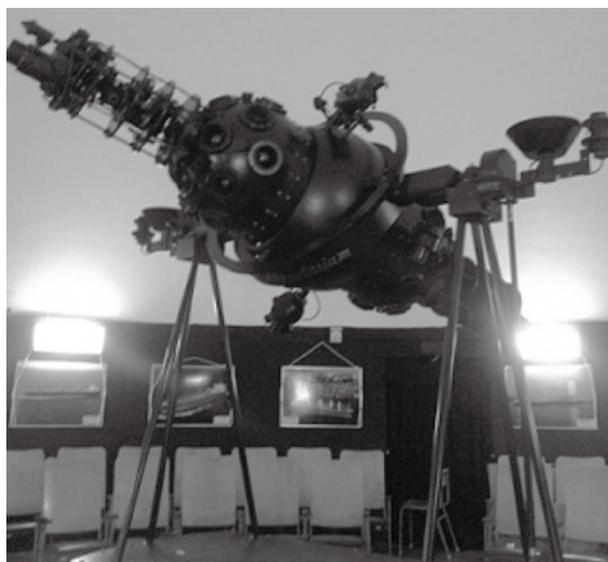


筆者は前列中央

海事普及会

海洋工学部 海事システム工学科2年
代表 平野 武

私たち海事普及会は海や船の事を多くの方に知ってもらうための巡回活動、地域イベントの参加を行っています。他にもプラネタリウム（M-1型として現役最古かつ唯一）の維持管理を行い、海王祭などで上映を行っています。活動の原点である巡回活動とは海に縁のない地域の子供達に海と船の役割や面白さを伝えるに行く活動です。今年度の巡回活動は新潟県及び沖縄県での実施を予定しておりましたが、感染拡大の影響を受け延期の上、沖縄県の1校での実施となりました。来年度は広島県、新潟県での実施を検討しており実施に向けて準備を行っています。その他、地域での活動についても感染拡大の影響を受けイベントが延期、中止となり思うように活動を行えない状況でありましたが、動画やオンライン会議ソフトを使用したオンラインイベントなどを通じ精力的に活動をしてまいりました。未だ先行きの不透明な状況ではありますが、海と船の魅力を伝えられるよう活動してまいります。



ニュース & トピックス

品川キャンパス オンライン父母等懇談会

令和3年2月4日(金)~20日(日)に品川キャンパスオンライン父母等懇談会が開催されました。

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、事前の参加申込みによるオンライン(オンデマンド)での開催となり、舞田理事・副学長(教育・国際担当)、庄司副学長(広報・学生支援担当)、黒瀬海洋科学部/海洋生命科学部長による大学の現況、学生支援、学部教育につい

での説明動画をYouTubeに掲載しました。また、質疑応答については、事前に質問を受け付け、回答文を掲載しました。

昨年に引続きオンラインでの開催となりましたが、103組の父母等の方々から参加申込みがあり、大変有意義な懇談会となりました。

2021年度海洋工学部父母等懇談会

11月20日(土)に海洋工学部父母等懇談会を行いました。昨年度に引き続き感染症対策のため従来行っていた、海王祭期間中での対面実施ではなく、オンライン会議システムWebexを使用しての実施となりました。

事前に郵送により通知したところ、参加希望者は156名となり、当日もほとんどの方々に参加していただきました。

当日は舞田理事の開始挨拶から始まり、舞田理事、庄司理事の大学におけるコロナウイルス対策や就職活動の様子など現状の説明と、事前に寄せられたご意見に

回答する形での海洋工学部の教育等について、元田海洋工学部長からの説明までを、参加者全員に対して行いました。

後半は学科ごとに分かれて、質疑応答を行いました。各学科では、就職活動、乗船実習についてなどの質問に丁寧に回答しました。

Webでの開催は遠隔地に住む父母等の方々には参加しやすかったとのご意見をいただきました。今後もオンラインでの参加も可能な実施形態を検討する予定です。



令和3年度9月期学生表彰授与式を行いました

令和3年度9月期学生表彰授与式を9月28日（火）、越中島キャンパスにおいて行いました。



井関学長（前列左から4人目）と受賞者

授与式では、学生表彰規則に基づき、研究活動において特に顕著な研究成果を挙げた大学院学生6名および早期修了学生1名に対して、日頃の努力を称え、表彰状及び記念品が授与されました。

また、今回の授与式は、新型コロナウイルス感染症の予防対策として、会場とオンラインの併用により行い、2名の受賞者がオンラインにて出席しました。



オンラインにて出席の受賞者

令和3年度9月期学位記・修了証書授与式を挙行了しました

令和3年度9月期学位記・修了証書授与式を、9月28日（火）に越中島キャンパス越中島会館講堂にて挙行了しました。

今年度の9月期卒業生・修了生は、学部卒業生14名、水産専攻科生1名、乗船実習科修了生40名、博士前期課程修了生43名、及び博士後期課程修了生20名の計118名です。

それぞれ授与された学位記を胸に、思い出の詰まった母校から旅立ちました。

井関学長は式辞の中で、昨今の新型コロナウイルス感染症によるパンデミックは、過去の感染症の例と比べても遥かに規模が大きく困難な状況であるが、だからこそ、ワクチン開発が僅か1年という短期間でめざましく進んでいること、そして困難な状況でこそ数多くの

努力によって科学は進歩し、人々の生活に恩恵を与えるということを伝えました。

その上で、「どんな困難な状況においても、決して悲観的になることなく、自分の置かれている状況を一步引いて俯瞰し、世の中で起こっていることを冷静に観察して欲しい」と述べ、ウィズコロナの社会の変革に振り回されることなく、むしろ変革を積極的に推し進めて、社会に新たな恩恵をもたらしてほしいとの希望を、卒業生・修了生の皆さんへ託しました。

今年度は昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、出席者を卒業生・修了生と教職員のみ限定し、検温や座席間隔の確保等、例年とは異なる形式となりましたが、卒業生・修了生の門出を祝う温かい雰囲気の中での開催となりました。



井関学長から代表者への学位記・修了証書授与



井関学長からの式辞

令和3年度10月期大学院入学式を挙行了しました

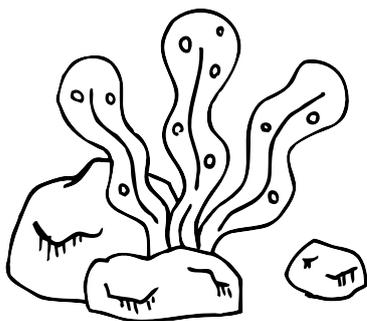
令和3年度10月期入学式を10月5日（火）、品川キャンパス楽水会館大会議室にて挙行了しました。

本学では、大学院（海洋科学技術研究科）に10月期入学の制度があることから、この時期に開催しており、新入生の多くが留学生のため、例年どおり、司会や学長式辞は全て英語にて執り行われました。

新入生は、博士前期課程36名、博士後期課程26名の計62名が東京海洋大学生として、新たな一歩を踏み出しました。

井関学長は式辞の中で、「海洋産業AIプロフェッショナル育成卓越大学院プログラム」や「水圏生殖工学研究所」設立といった、本学の取り組みを紹介するとともに、「近年の様々な環境問題を解決するためには、多岐にわたる分野において若い力が必要となる。そのため、様々な国から多彩な学生が本学に入学してくれたことを、喜ばしく思う。充実した学生生活を送ることを願っている。」と述べ、今後活発な研究活動が行われていくことへの期待感を示しました。

今年度は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止のため、出席者を新入生と教職員のみ限定し、検温や座席間隔の確保等、例年とは異なる形式となりましたが、新入生の門出を祝う和やかな雰囲気の中で開催となりました。



博士前期課程の入学許可



博士後期課程の入学許可



井関学長の式辞

汐路丸竣工披露式を開催しました

令和3年10月14日、東京海洋大学練習船汐路丸竣工披露式を越中島会館講堂にて執り行いました。この度の式典は、新型コロナウイルス禍でもあることから規模を縮小して実施し、関係機関からの来賓の皆様及び本学の関係者の約60名が参加しました。

式典では、井関俊夫学長の挨拶の後、文部科学省高等教育局専門教育課課長補佐の奥井雅博様、国立研究開発法人水産研究・教育機構理事・水産大学校代表の荒井修亮様及び独立行政法人海技教育機構総務担当理事の久門明人様より祝辞を賜りました。続いて、本船建造に多大なご尽力を頂いたジャパン マリンユナイテッド株式会社様及び一般社団法人海洋水産システム協会様に対し、井関学長より感謝状が贈られました。その後、汐路丸代船建造委員会委員長の竹本孝弘教授より汐路

丸の紹介が行われ、閉式となりました。また、式典後には、豊海水産埠頭へ移動し、来賓の皆様へ最新の機器を搭載した汐路丸の船内をご覧頂きました。

この度の汐路丸の竣工により、本学の教育・研究の更なる発展が期待されています。



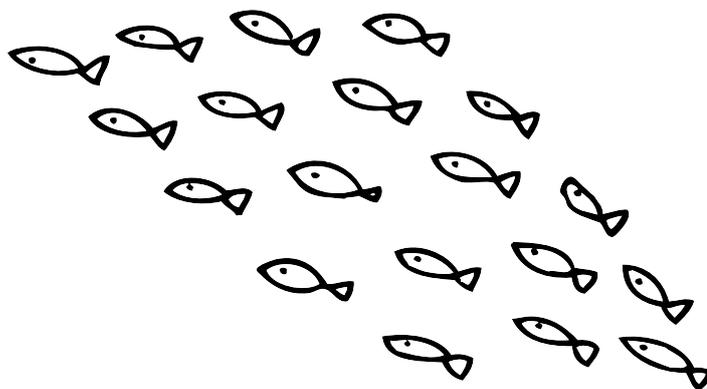
文部科学省高等教育局専門教育課 奥井課長補佐

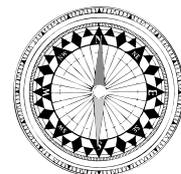


井関俊夫学長挨拶



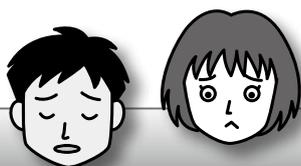
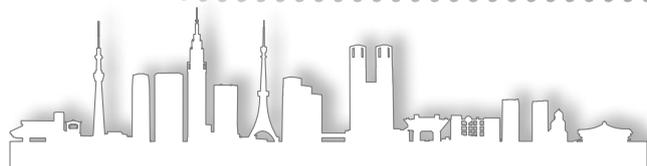
船内見学に向かう人々





学生相談室からの

お知らせ



学生相談室について

学生相談（カウンセリング）

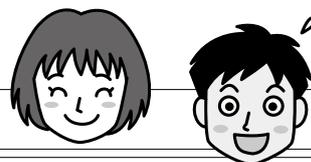
学生生活、進路、対人関係で悩みがある場合は、専門カウンセラーが相談に応じます。

話をしてみることで、あるいは自分の思いを表現してみることで、思いのほか気持ちが楽になったり、次

への展開へのきっかけが見つかったりもするものです。相談内容についての秘密は厳守されています。

当面の間、新型コロナウイルス感染症の対応として原則、電話でのカウンセリングとなります。なお曜日変更となる場合がありますので、HPをご確認ください。

品川キャンパス

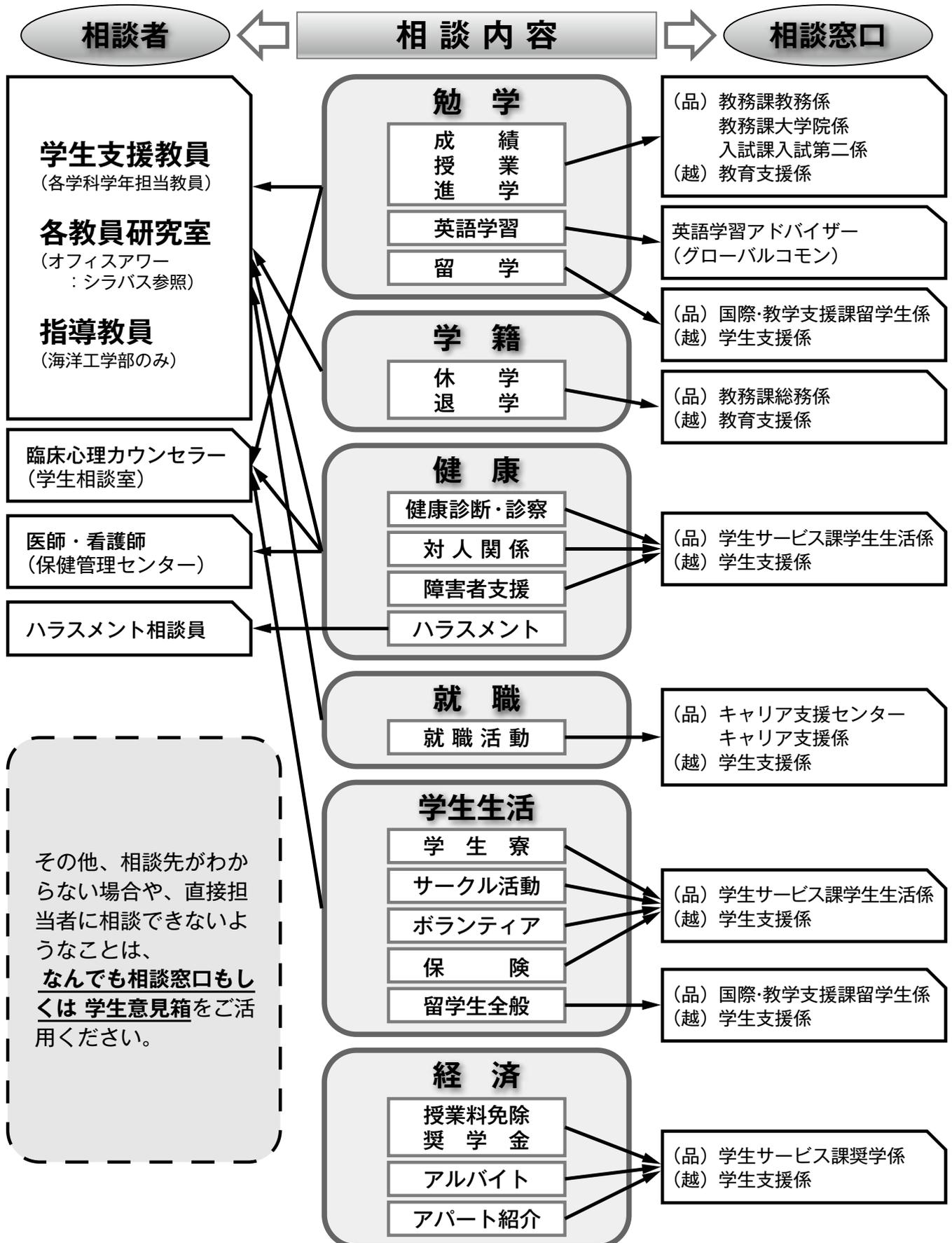


場 所	大学会館 1 階学生相談室
日 時	※詳細については、保健管理センターホームページをご覧ください。 大学ホームページ — 「在学生の方へ」 — 「保健管理センター」 — 「学生相談」
相談員	井上先生（女性：臨床心理カウンセラー・月曜日担当） 高井先生（女性：臨床心理カウンセラー・木曜日担当）
予約方法	メールでご予約ください。 メール s-counseling@o.kaiyodai.ac.jp

越中島キャンパス

場 所	越中島会館 1 階 学生相談室
日 時	水・金曜日 12:00 ~ 16:00 ※詳細については、保健管理センターホームページをご覧ください。 大学ホームページ — 「在学生の方へ」 — 「保健管理センター」 — 「学生相談」
相談員	善積先生（女性：臨床心理カウンセラー・水曜日担当） 河崎先生（女性：臨床心理カウンセラー・金曜日担当）
予約方法	直接相談室においでくださるか、保健管理センターでご予約ください。 1. 窓口にて 2. 電 話 03-5245-7357（保健管理センター事務室） 3. メール e-hoken@o.kaiyodai.ac.jp

本学の学生相談体制について



お知らせ

就職支援体制について

キャリア支援センターでは学生への支援として開催している「就職ガイダンス」、「企業説明会」、「公務員試験対策講座」及び「各種就職関連テスト」の実施、留学生に特化した「進路ガイダンス」、職業観の涵養を目的とした企業による業界セミナー及びエントリーシート添削・面接対策などの個別就職相談を更に充実させるとともに、学生の就職に対する意識の向上を促し、教学と学生支援の協働を緊密に行い進路支援体制の強化を図っています。学部生対象のキャリア教育としては、インターンシップへの参加を意識させることにより、様々な形での社会からのニーズに触れ、学生が自分のキャリアデザインに資

する機会を設けています。学部で開講する「キャリア形成論Ⅰ・Ⅱ」の科目は、キャリア開発に関する講義や産業界で活躍する人材をゲストスピーカーとして招くとともに、学部の特徴に応じた社会的な情勢を学生に伝え、キャリア形成に向けた動機付けを高める内容となっています。また、特に大学院生に特化したキャリア教育としてはキャリア相談等の支援体制を充実させ、特任教授によるキャリア開発に関する講義や企業や団体の第一線で活躍する方を講師に迎えて実施する「高度専門キャリア形成論Ⅰ・Ⅱ」の開講などにより、キャリア開発支援に取り組んでいます

国立科学博物館および国立美術館の利用について

本学は、「国立科学博物館 大学パートナーシップ」および「国立美術館キャンパスメンバーズ」に加入しております。

◆国立科学博物館 大学パートナーシップ利用可能施設

施設名	住所
国立科学博物館(上野本館)	東京都台東区上野公園7-20
附属自然教育園	東京都港区白金台5-21-5
筑波実験植物園	茨城県つくば市天久保4-1-1

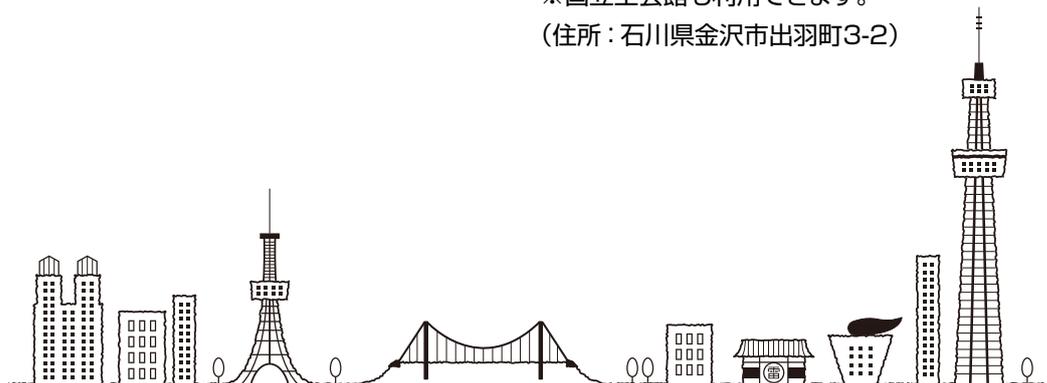
本学の学生証を提示することで、下記施設の常設展が無料で利用できるほか、特別展・企画展を割引料金で鑑賞できるなどの特典があるので、ぜひご利用ください。

◆国立美術館 キャンパスメンバーズ利用可能施設

施設名	住所
東京国立近代美術館	東京都千代田区北の丸公園3-1
国立西洋美術館	東京都台東区上野公園7-7
国立新美術館	東京都港区六本木7-22-2
国立映画アーカイブ	東京都中央区京橋3-7-6

※国立工芸館も利用できます。

(住所：石川県金沢市出羽町3-2)



緊急時連絡システムについて

(さくら連絡網)

1. 緊急時連絡システムとは

本学のすべての学生・教職員と緊急時に連絡をとるためのメール・LINE・アプリによる配信システムです。

- ①台風・地震等の自然災害やインフルエンザ流行等による**緊急の休講等**を連絡します。
- ②**災害時の安否確認**や健康状態の収集手段としても使用します。
- ③その他、掲示板で告知するお知らせの中で緊急性があり重要と判断するお知らせ等の連絡をします。

2. 登録方法

携帯電話・スマートフォン等の携帯端末や自宅PC等の**複数のメールアドレス（4件まで）**、LINE、アプリも登録できます。**必ず登録してください。**

3. 登録手順

(1) さくら連絡網登録用QRコードまたはURLにアクセスします。

QRコードはこちら →



URLはこちら → <http://390390.jp>

URLを直接入力した場合は、
認証コードの入力を求められます。
認証コード：204 441 4

(2) 連絡を受け取りたい方法を**【LINE】**、**【アプリ】**、**【メール】**から選びます。（※3種類とも登録できます。）

(3) **【LINE】**を選んだ場合

- ①LINEの友だち追加ボタンから登録（追加）します。（トークから登録開始）
- ②認証コード：204 441 4を入力します。
- ③IDとパスコードを入力します。

【アプリ】を選んだ場合

- ①さくら連絡網のアプリをインストールします。
- ②アプリを起動して、認証コード：204 441 4を入力します。
- ③IDとパスコードを入力します。

【メール】を選んだ場合

- ①登録用メール送信画面に切り替わるので、そのまま送信します。（※メール本文は変更しないでください。）
- ②さくら連絡網からメールで登録用のURLが届きます。
- ③URLにアクセスして、登録画面からIDとパスコードを入力します。

(4) メニュー画面（以下、マイページといいます）が表示されたら登録完了です。

4. メール受信時の注意

- ①緊急時連絡システムでは、メール、LINE、を受信者が開けたかどうかの確認できるシステムです。
また、アンケート形式で安否確認を行う場合もあります。
受信した場合は、必ず開封し、内容を確認した後、指示に従って回答してください。
- ②登録用メールが届かない場合は、ドメイン指定受信に「school-i.net」を追加登録してください。
- ③マイページ (<https://390390.jp/parent/menu>) をブックマーク（スマートフォンの場合はホーム画面に追加）しておくと、後日、メールアドレスの変更等を行う際に便利です。また、簡単ログイン設定をしておくと、次回からワンクリックでマイページにアクセスできます。
- ④配信先の変更を希望する場合やアドレス自体を変更した場合は、マイページのメニューの「連絡先を追加」から新し

い連絡先を追加するとともに、「登録情報確認」から古い連絡先を削除してください。

- ⑤ログインID、パスコードは、各自で管理して下さい。（入学時に、学部生には大学メールアドレスに配信。大学院生、非正規生には紙で配付しています。）
- ⑥パスコードを紛失した場合は、以下の問合せ先へご連絡ください。
- ⑦緊急時連絡システムは、大学からの送信専用アドレスです。
上記のアンケート形式での回答以外は、大学側では内容の確認ができませんのでご注意ください。

5. 個人情報の取り扱いに関して

緊急時連絡システムにご登録いただいたメールアドレス等、個人情報に関しては本学個人情報保護規則に則り厳正な取扱いをいたします。また、上記の目的に限り使用し、他の目的で使用することはありません。

EMERGENCY CONTACT SYSTEM

“さくら連絡網 (SAKURA RENRAKUMOU REGISTRATION)”

What is the Emergency Contact System?

The purpose of this system is to contact students, professors and university staff members by email in the following cases:

1. to inform them when classes are suddenly canceled due to a natural disaster (typhoon, earthquake), a flu epidemic or other reasons
2. to gather information about the safety and health of university members after a disaster
3. to inform urgent and important information displayed on the university's notice boards

How to register

Please register multiple mail addresses (up to Four) or LINE or app of mobile terminals such as mobile phones, smart phones, and home PC in order to confirm the correspondence from university in emergency surely and promptly. Please be sure to register.

Registration process

1. Access the QR code or URL for Sakura Renrakumou registration.

QR code



URL

<http://390390.jp>

2. Choose a method by which you would like to receive from the university, “LINE” or “app” or “Email.”

*You can also register both.

3. When you choose **“LINE”**,

- ① register (add) from LINE's Add Friends button. (i.e., start from “Talk” page).
- ② input Authentication code: 204 441 4.
- ③ input ID and Passcode.

When you choose **“app”**,

- ① Install Sakura Renrakumou app.
- ② input Authentication code: 204 441 4.
- ③ input ID and Passcode.

When you choose **“Email”**,

- ① the page moves to the registration mail sending screen, please send the mail.
*Please do not change the mail body.)
- ② receive an email for registration from Sakura Renrakumou.
- ③ access the URL and enter the ID and passcode on the registration screen.

4. Registration is completed when the menu screen is displayed.

Notes

- The system is configured to detect whether recipients have accessed their messages. It is also used to gather information about the safety of the registered community through questionnaires. When you receive it, please ensure that you open the message and reply according to the instructions.
- If you fail to receive the registration form after sending a registration email, please check your mobile phone's spam filter settings. Add the domain name school-i.net to your list of authorized contacts.
- Add the system login page (<https://390390.jp/parent/login>) to your bookmarks to easily access your email and passcode settings.
- Manage your ID and passcode carefully, and make sure that you change your passcode after logging in for the first time.
- To change your delivery settings, register a new email address.
- If you forget your passcode, contact the responsible section using the contact details below.
- The system is a send-only address. Please keep in mind that the university cannot receive emails sent to this address.

Privacy policy

Email addresses and other personal information registered on the system are strictly protected according to the university's privacy policy. The system is used exclusively for the purposes stated above.

Contact

General Affairs Department, General Affairs Division
Email: so-soumu@o.kaiyodai.ac.jp Tel: 03-5463-0354

重要!

ネットワーク障害防止のための注意事項

キャンパス内で、ネットワーク停止が頻発しています。
研究室内の配線の点検をお願いします。

ループ状にケーブルを接続しない

ケーブルの両端をネットワーク機器に接続すると、出口のない通信パケットがネットワーク内で増大し、フロア全体や建屋全体が通信不能になるなどの重大な障害が引き起こされます。利用しないケーブルは機器から取り外してください。



古いハブ、壊れた LAN ケーブルを使用しない

古くなったプラスチック製のハブ(HUB、Switch)は、熱暴走等でフロア全体の通信障害の原因となることがあります。壊れた配線やコネクタの損傷も通信トラブルの原因になる場合があります。導入後の年数や破損状況などを確認し、適宜、買い替えましょう。

→ **金属製ケースのハブがオススメ**です。放熱に優れ、安定して長く使えます。
詳しい型番などは下記窓口にお問い合わせください。

研究室内のルータの設定・接続を正しく行う

研究室で個別に設置したブロードバンドルータ、無線 LAN ルータの DHCP 機能の誤設定により、フロアや建屋全体での通信障害につながる場合があります。ネットワークケーブルが正しく接続されているかを点検してください。

→ **「WAN」「LAN」を間違えると障害が発生します!**

古い OA タップの使用、定格電流を超えた使用や、タコ足配線は**火災の原因**になりますので、注意してください。



注意

PC は最新の状態にアップデートしてください

OS の脆弱性を狙ったウイルスによる情報漏えい被害が世界的に報告されています。利用している OS やウイルス対策ソフトを常に最新の状態を保つようにしてください。私有のノート PC でも、大学配布のウイルス対策ソフトをインストールすることができますので、是非活用してください。

Windows XP、Vista、8、Mac OS X、macOS の古いバージョンは、メーカーサポートが終了しています。これらの OS をお使いの場合は速やかに最新の OS に更新してください。
現在利用可能な OS は、Windows 11、Windows 10、Windows 8.1、最新バージョンの macOS です。

PC 等を廃棄する際はデータの消去をしてください

廃棄するパソコン等からの情報流出を防ぐため、ハードディスク、SSD 等の記録媒体の破壊装置、消去装置を利用してください。下記窓口にお持ちください。

情報システムに関する全学問合せ窓口

メール ict-support@o.kaiyodai.ac.jp 内線 0446

附属図書館 (品川) 1 階事務室内 (担当: 学術情報課情報企画係)

大学配布ソフトウェアの入手方法 <https://sites.google.com/site/kaiyonet2016/>

Important!



Precautions for Preventing Network Failure

Network outages occur frequently on campus.
Check the wiring inside the research office.

Do not connect the cable in a loop (as in the picture.)

Connecting both ends of a cable to network equipment can cause serious obstacles. For example, communication packets without an exit increase within the network, making the entire floor or building unreachable. Remove unused cables from the equipment.



Do not use old hubs or broken LAN cables

An old plastic hub (HUB, Switch) may cause communication failure of the entire floor due to thermal runaway. Damaged wires and connector damage may also cause communication trouble. Check the years of use and state of damage and replace as necessary.

→ A hub with a metal case is recommended. It is stable, long-lasting, and provides excellent heat dissipation. For a detailed model number, contact the Inquiry Center given at the bottom of this page.

Set up and connect the router in the office correctly.

Misconfiguration of the DHCP function on the broadband router and wireless LAN router individually installed in the offices may lead to communication failure on the floor or the entire building. Check that the network cable is properly connected.

→ If "WAN" and "LAN" are confused, network failure will result! Use of old OA taps, use exceeding the rated current, and use of power strips may cause fire. Beware.



Caution

Optimize your PC with the latest updates



Information leakage due to viruses targeting OS vulnerabilities is reported worldwide. Make sure that the operating system and antivirus software you are using are kept up to date. Even on a private notebook PC, you can install the university-distributed antivirus software. Take advantage of it by all means. Manufacturer support has ended for Windows XP, Vista, 8, Mac OS X, and old versions of macOS. Update to the latest OS promptly if using these OS. The currently available OS are Windows 11, Windows 10, Windows 8.1, and the latest version of macOS.

Delete data when discarding a PC, etc.

To prevent information leakage from discarded personal computers, etc., use data destruction and erasure devices for recording media such as hard disks and SSDs. Please bring them to the following counter:

Information System Inquiry Center

Email ict-support@o.kaiyodai.ac.jp Extension 0446

TUMSAT Library (Shinagawa) Office, first floor

To obtain University distribution software, contact: <https://sites.google.com/site/kaiyonet2016/>

学生関係窓口からのお知らせ

両キャンパスの学生関係の窓口対応時間は下記のとおりです。

窓 口	窓口対応時間
《品川キャンパス》 学務部事務室 (講義棟1階) キャリア支援センター (白鷹館1階) 《越中島キャンパス》 越中島地区事務室 (1号館1階)	○授 業 期 間 8:30 ~ 18:00 ○春・夏・冬季休業期間 9:00 ~ 12:00 13:00 ~ 17:00
《品川キャンパス》 入 試 課 (本部管理棟1階)	○授 業 期 間 8:30 ~ 12:00 13:00 ~ 17:00 ○春・夏・冬季休業期間 9:00 ~ 12:00 13:00 ~ 17:00

※新型コロナウイルス感染拡大防止等のため、各キャンパスの窓口対応時間が変更となることがあります。

40

悪質な就活商法に関する注意喚起

各大学で、学生に対して就職活動を支援するためのセミナー等を企画し、高額な参加費を徴収する団体による被害が発生しています。

なお、参加費が無料である場合も注意が必要です。そのセミナー等がカルト団体の勧誘窓口となっている場合があります。

本学においても、近年、そのような団体に入会して脱退する時に苦労した事例や、学内において強引な勧誘行為があったとの相談が寄せられた事例があります。

就活イベントの会場周辺では就活生の不安につけ込み、親しげに声をかけ就活商法の勧誘を行う者がおり、安易に氏名や携帯番号を教えている就活生も多いようです。



セミナー等の就活商法については、安易に個人情報を伝えることのないようご注意ください。国民生活センターによると、就活商法の被害相談は、毎年100件を超えているそうです。

「被害に遭った」「意に反して強引に勧誘された」等の場合、遠慮なく〔相談窓口〕へご相談ください。

(品 川) 学生サービス課学生生活係
 (越中島) 越中島地区事務室学生支援係



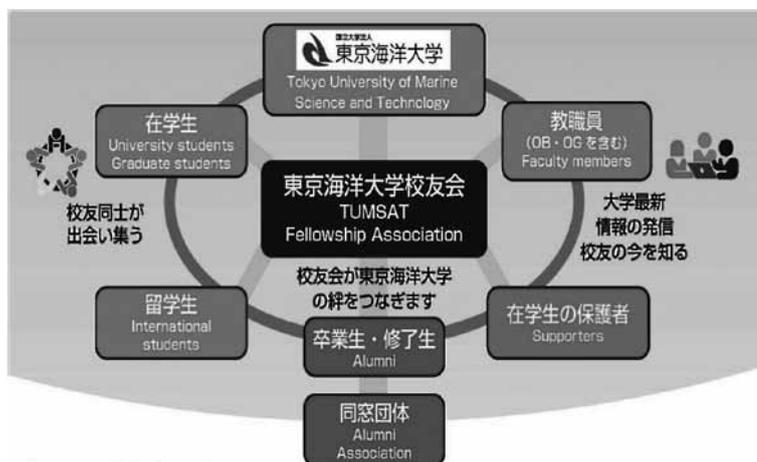
東京海洋大学校友会のご案内

Q1.「東京海洋大学校友会」とは何ですか？

本学は、2017年4月の新学部設立を機に国内における唯一の海洋系総合大学として体制を強固にしました。今後、社会全体に強くその存在をアピールしていくため、2018年4月、全学的に「校友」同士の交流を活発化させ、本学の発展に寄与することを目的として、「東京海洋大学校友会」を発足しました。

Q2.「校友」とは誰ですか？

東京海洋大学および東京水産大学、東京商船大学等前身校の卒業生、在學生、在學生・卒業生の保護者、教職員の皆さまです。ホームカミングデーや練習船見学会など、「校友」限定イベントも企画し、「校友会ホームページ」や「校友会メルマガ」でお知らせいたしますので、ぜひご参加ください。



Q3.「校友会ホームページ」とは何ですか？私もアカウントを貰えますか？

SNS機能、校友会メルマガ、公認課外活動団体ポータルサイトなど様々な機能を備えた「校友」限定ホームページです。「校友」の皆さまには個別アカウントを配布しております。**(登録及び会費は無料です。)**



海洋大の「今」が分かるコンテンツを少しずつ充実させています。開発中の機能もありますが、ぜひ、実際に使ってみてください。



(校友会ホームページ QRコード)

【アカウント取得方法】

- 在學生の方：大学メールアドレス（～@edu.kaiyodai.ac.jp）宛にID・パスワードを送付済みです。不明な場合は、再送も可能ですので、お気軽に校友会事務局にお問合せください。
- 卒業生・保護者の方：校友会ホームページの「新規登録」ボタンから、ぜひ申請をお願いいたします。（校友会事務局で内容を確認後、ID・パスワードを送付します。）

★★★ご卒業を控えた方へ★★★

【重要】ご卒業後も引き続き利用いただけるようにするため、卒業前に「連絡用メールアドレス」の変更をお願いいたします。※初期設定の大学メールアドレスは、卒業後に使用できなくなります。（ログイン後の画面「プロフィール設定」>「プロフィールの編集」>「連絡用メールアドレス」）

また、本学卒業生を支援する同窓組織として「楽水会」「海洋会」があります。本学卒業生との強固なネットワークを築いておりますので、ぜひご加入ください。
楽水会：<http://rakusui.or.jp/>
海洋会：<http://www.kaiyo-kai.com/>

校友会に関する問合せ先：

東京海洋大学校友会事務局
電話番号：03-5463-4014
メールアドレス：koyukai@o.kaiyodai.ac.jp

掲 示 版

薬物の乱用について

薬物の乱用は、本人の精神と身体に危害を及ぼします。また、友人や家族関係の崩壊にもつながるなど、本人だけでなく、社会全体に計り知れない影響をもたらします。このため、薬物の所持や使用は法律で禁止されており、違反者は厳罰に処せられます。

薬物に対して安易な気持ちや一時の興味で接することのないよう十分注意してください。

盗難に注意

下記の事項を守り、自己管理を徹底してください。

- ・貴重品は、できる限り大学には持参しないでください。
- ・やむを得ず所持する場合は、各自でロッカーに鍵をかけて管理してください。
- ・鍵は安易に解錠出来ないもの（ダイヤル式など）を選んでください。

悪質商法等に注意

消費者契約等に関するトラブルが増加しています。うまい話には要注意です。少しでも疑問を感じたら契約しないでください。また、身に覚えのない請求などは支払わないでください。

訪問販売や電話勧誘販売など、特定の取引の場合に、一定期間内ならば理由を問わず解約できるクーリング・オフ制度があります。もしも被害に遭ってしまったときは消費生活センターに相談してください。

カルト団体等の偽装勧誘に注意

キャンパス内において、自らが宗教団体であることを名乗ることなく、サークル活動や自主ゼミと称し、特定の反社会的なカルト団体に引き込もうとする「偽装勧誘」の事例があります。

声を掛けられておかしいと感じた場合はキッパリと断り、安易に電話番号、メールアドレス等を交換しないでください。また、不審な団体と感じたとき、あるいは勧誘活動を受けた場合は、下記まで知らせてください。

- 品川キャンパス：学生サービス課学生生活係
- 越中島キャンパス：越中島地区事務室学生支援係

飲酒についての注意事項

(1) 未成年者の飲酒は法律で禁止されています。

アルコールには麻酔作用があるので、未成年者が飲み方や適量もわからず無理に飲むと、急性アルコール中毒を起こしやすいといわれています。もし、誰かに勧められても、きちんと断ることが大切です。

(2) 飲酒の強要は絶対にしないこと。

未成年者やお酒に弱い方にお酒を強要することは絶対にしないでください。

(3) 飲酒運転は厳禁です。

「道路交通法」では飲酒運転のほか、飲酒者への車両の提供、運転者への酒類の提供、飲酒運転の車への同乗についても禁止されており、厳しい罰則が課せられます。

SNS、ツイッター、ブログ等の利用に関する注意事項

Facebookやツイッターに代表されるSNS（ソーシャルネットワークサービス）、あるいはブログなどを利用していると思いますが、インターネット上に書き込んだ内容は全世界に公開されることとなります。転載・拡散された場合等には、長期間ネット上に残り、何らかのきっかけで問題となることがあります。SNSなどインターネットへの書き込み、写真や映像の掲載・投稿には十分注意し、個人情報を書き込まないようにしてください。

大学ホームページ「在学生の方」－「情報セキュリティ」－「情報倫理ガイドライン」何か困ったことがあれば、周りの人に相談するようにしてください。SNSの公式サイトヘルプや問合せ窓口なども参考にしてください。

